



Investors' Guide 2014

そこは非日常の空間。

最高級のサービスと上質なホスピタリティで
お客様をおもてなしいたします。

RITG

リゾートトラスト株式会社
インベスターズガイド 2014 (日本語版)
証券コード: 4681

会員制リゾートクラブ業界No. 1の実績 を活かし、次なる飛躍のステージへ

創業1973年、国内で会員制リゾートクラブ市場を40年以上にわたり牽引してきたリゾートトラストは、22年連続で会員制リゾートクラブ業界のシェアNo. 1を維持し、ゆるぎない業界トップの座を誇れる存在となりました。私たちが高収益事業を確立できたのは、追従を許さない独自のビジネスモデルの構築、ハイセンス・ハイクオリティへのこだわり、そして会員皆様一人ひとりの声を聞き、ホテルの開発や運営、サービス向上に活かし、徹底的に顧客満足を高めることで事業を成長させてきたからです。私たちが提供する最高のおもてなしを、昨今成長が著しい医療分野やシニアライフ事業へ、さらに複合・周辺事業へと展開し、さらなる飛躍を目指していきます。

目次

特集 p2

トップメッセージ

投資家の皆様へ p10

社長インタビュー p12

Next40（中期経営計画） p16

リゾートトラストの事業

事業領域と沿革 p18

事業概況 p20

施設紹介 p22

リゾートトラスト ネットワーク p24

CSR・経営体制

CSR活動 p26

コーポレート・ガバナンス p28

ファクトシート p29

見通し及び数値に関する注意事項

このインベスターズガイドには、当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見込みです。また、経済動向、業界における競争の激化、個人消費、市場需要、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実性を際限なく含んでいます。それゆえ実際の業績は、当社の見込みとは異なる可能性のあることをご承知おきください。



特集

1. 国内富裕層15万人以上の会員ネットワークが成長の原動力
2. 会員制リゾートクラブ業界で国内シェア70%以上
22年連続シェアNo. 1を達成 出所：第31回サービス業総合調査(日経MJ 2013/11/13)「会員制リゾートクラブ」上位10社の部門売上高(2012年度)よりシェアを算出
3. 短期間での投資回収と安定した運営収益により
健全な財務体質となるビジネスモデルを構築
4. 会員制リゾート事業で培った基盤をメディカル事業へ活用し
大きく飛躍
5. 幅広く展開する総合メディカルネットワークサービスが
収益を拡大

Q uestion

景気の影響を受けやすいような
リゾート産業において、今後も安定的に
成長を続けていくことができるのでしょうか？

エクシブ京都 八瀬離宮

Answer

富裕層を基盤とした会員制リゾート事業においては、消費に対する意欲が景気に左右される部分は比較的小さく、安定した需要を見込むことができます。余暇を楽しもうとする国内富裕層15万人以上の会員ネットワークが、成長の原動力となっています。

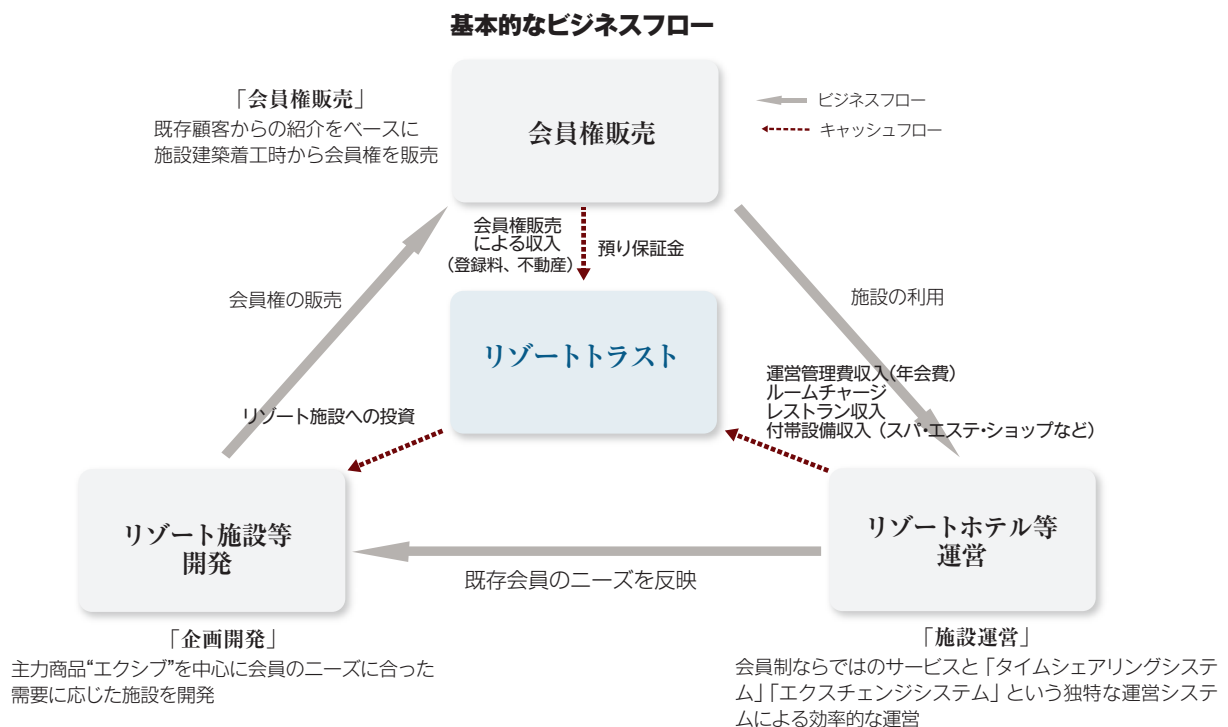
当社の会員制リゾート事業は、富裕層の方々を中心にサービスを提供しており、景気や可処分所得の変動による収益への影響は比較的小さく、安定しています。また、当社グループの会員は優良顧客15万人以上に上り、国内会員制リゾートクラブ業界におけるトップシェアを誇り、当社グループの今後の成長にとって非常に大切な要素となっています。

トップシェアを維持できるのは、営業力、開発力、運営力の3つを継続的に向上させることで、常に会員皆様にご満足いただき、同時に会員数を着実に積み上げてきたからです。

会員制ホテルを運営する上で培ってきたさまざまなノウハウを活かし、会員の皆様一人ひとりに担当者が付くきめ細かい高品質なサービスは、新規会員の85%以上が既存会員からの紹介という実績につながっています。既存会員のネットワークを活かした会員の継続的な増加という好循環を生み出しているのです。

開発力は、会員制で日本一を誇る施設数、京都、箱根などを代表とする国内有数の景勝地への立地、ハイセンス・ハイクオリティを追求した施設など、リゾート産業を牽引する当社の実績によって強化され、さらに会員様のご意見を反映したホテル開発を行っています。

運営力においては、会員満足の最大化に向けて培ったノウハウに加え、会員制ホテルの特性として、事前に来客数を把握でき、適切な人員配置が可能となることにより、運営の効率化を実現しています。



Q uestion

日本の会員制リゾート事業において
どのような発想から独自のビジネスを
構築されたのでしょうか？

グランドエクシブ初島クラブ「新和食オセアノ」

Answer

会員皆様にご満足いただけるよう

欧米のタイムシェアリングシステムを日本の富裕層向けにアレンジ
国内シェアは70%以上、22年連続シェアNo. 1を達成しています。

当社グループは、国内会員制リゾートクラブ業界でシェア70%以上を達成、22年連続でトップの座についています。当社は、余暇先進国といわれている欧米で主流のタイムシェアリングシステムを採用し、日本の富裕層向けにアレンジしました。余暇を優雅に、そして安全に過ごしたいと考える富裕層の方々にとって、別荘を持つとする場合には、年に数回、数ヶ月の利用にもかかわらず、所有期間を通して設備の維持管理が必要になるほか、防犯面などの不安もあります。当社のシステムは、共同でお部屋を所有いただくことにより、また当社が運営することで、利用時の清掃や寝具、食事の準備などの負担も解決され、合理的で利便性の高い仕組みとなっています。さらにこれを日本流にアレンジし、独自の運営システムとしたことで他社との差別化を図り、シェアを急速に伸ばしました。主力施設「エクシブ」は、14名ないし28名のオーナーが1室を共有します。1年365日を予め公平に占有日として割り当てることで、日本特有の祝日や連休、休前日などの集中日の利用も、その占有日においては確実に保証される年間カレンダーの仕組みを提供し、日本で初めて年間26泊/13泊の完全利用保証を実現しました。また、オーナー同士の占有日の交換システムなどにより、どなたにも満足いただけるシステムとなっています。

さらに、付帯施設を充実させた総合リゾート「グランドエクシブ」シリーズ、すべての部屋がスーパースイートルームからなる「サンクチュアリ・ヴィラ」シリーズなど、宿泊人数や使用用途に合わせた幅広いラインナップを展開しています。2016年3月開業予定の「エクシブ鳥羽別邸」は、エクシブシリーズでは初となる純和風をコンセプトとしています。これからも、会員様のニーズにきめ細かく応えるシステムを備えることで、最高のホスピタリティをご提供するホテルを実現していきます。

独自のリゾートビジネス

タイムシェアリングシステム	完全利用保証 <ul style="list-style-type: none">● 共有型会員制システム● ホテルの一室を14人/28人のメンバー(オーナー)で共有● 1年間365日を14人/28人のメンバー数で分割した26泊/13泊の完全利用保証
エクステンジシステム	交換も可能 <ul style="list-style-type: none">● 会員間で利用予定のない占有日を交換できる● 他施設のタイムシェアとの交換利用も可能
フローティングシステム	1ヵ月前からは先着順 <ul style="list-style-type: none">● 他の利用予定のない部屋を1ヵ月前より先着順で予約可能

Q uestion

大規模なホテル開発への投資は、回収に長い期間を要するなど財務面に与える影響が大きいのではないのでしょうか。開業後の施設の維持管理や高品質なサービスにかかるコストが運営面での負担にならないのでしょうか？

エクシブ有馬離宮

Answer

短期間での投資回収と安定した運営収益により 健全な財務体質となるビジネスモデルを構築しています。

ホテル会員権のビジネスモデルは、投資回収期間の短いことが大きなアドバンテージとなっています。会員権は、施設工事着工時から販売開始が可能であり、ホテル開業に先だって販売を開始します。先に述べた、営業力、開発力に加え、既存会員からの紹介などで利用される際に、当社施設の魅力を体感いただくことで、およそ半数の会員権は開業前に購入いただいております。そして概ね5割程度の会員権を販売すれば全体の投資額は回収でき、多くの施設で開業までには投資を回収できるビジネスモデルとなっています。

また運営面においても、分譲型会員制ホテルであるため、一般的なホテルと比べると、減価償却費が少なく税金などの負担が軽減されます。そして、ルームチャージなどの変動収入に加え、年会費や保証金償却収入による固定収入が得られることが、安定的な運営に大きく寄与しています。入会時にお預かりする預り保証金は、返還を要さない償却型保証金が過半を占めており、その償却収入は修営繕費の原資となっています。そのため、保証金返還に伴う財務リスクも少なく、健全な財務体質を実現しています。

ホテル会員権の売上計上方法 ホテル会員権販売におけるキャッシュ・インと売上計上の時期(未開業物件の場合)

	契約	上棟	竣工	会計処理
販売合計額(100%)	販売額の60%受領	販売額の80%受領	販売額の100%受領	
預り保証金(約10%)	約10%を契約時に受領			契約時に負債計上
登録料(約40%)	約40%を契約時に受領			契約時に売上計上
不動産代金(約50%)	約10%を契約時に受領			開業時に売上計上
		約20%を上棟時に受領		
			約20%を竣工時に受領	

約5割の販売進捗で
投下資金を回収

(例)会員権価格が1,000万円のケース

	契約	上棟	竣工	開業
預り保証金 100万円	100万円 ^{*1}			
登録料 400万円	400万円			
不動産代金 500万円	100万円 ^{*2}	200万円 ^{*2}	200万円 ^{*2}	
契約高合計 1,000万円	600万円	200万円	200万円	
売上計上額	400万円	—	—	500万円 ^{*2}

*1 B/Sに負債計上され、開業後、償却してホテルレストラン等事業に売上計上。

*2 不動産代金については、開業するまで繰り延べられ、開業時に売上計上。

売上原価 350万円
年会費 13万円

Q uestion

リゾート事業とは業界が異なるメディカル事業への参入は高いリスクを伴いませんか？

MRI装置

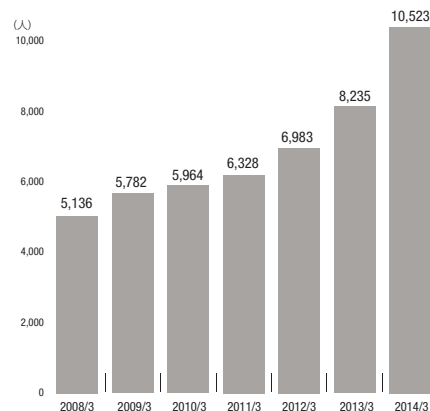
A nswer

会員様から寄せられる要望の中で特にニーズが強かったのが、このメディカルの分野です。「グランドハイメディック倶楽部」は、高齢化に伴う健康志向の高まりを受け、いつまでも健康ではつらつと人生を楽しみたいと考える皆様へ向けて、会員制の検診サービスとして誕生しました。

当社グループのメディカル事業は、1994年に医療とリゾートの融合を目指した検診施設「ハイメディック山中湖」の開設を始まりとしています。会員様の高齢化とともに高まる「健康で長生き」を求める声に対し、「リゾート地でリラックスしながら受けられ、痛みのほとんどない」新しい形の検診をコンセプトに、当社のリゾート施設とホスピタリティを活かした事業として誕生しました。MRI、PET/CT等の先端医療機器を先駆けて検診に取り入れ、「山中湖方式」と呼ばれる世界の医療施設のスタンダードとなる検診システムを確立し、これまでに延べ8万人以上の検査実績を積み重ねており、その数は世界トップクラスです。

当事業の運営には、先端医療機器や設備のほか、検診を行う医師やスタッフの確保など、初期投資が必要となります。そのため、比較的早期に資金を回収できる会員制の仕組みや、会員募集におけるグループの顧客基盤と営業力がこの分野にも活かされており、それらが他社との差別化要因にもなっています。

メディカル会員数の推移





Question

メディカル事業が今後、成長の柱となる上での強みはどこにあるのでしょうか？

東京ミッドタウンメディカルセンター



トラストグレイス御影(シニア向けレジデンス)

Answer

幅広く展開する総合メディカルネットワークサービスを会員様へ提供していくことにより、さらなる収益拡大を図ります。

当社グループのメディカル事業は、予防医療・先端治療・エイジングケア・介護分野にわたる総合メディカルネットワークサービスを提供しています。

健康時より継続して蓄積・分析できる検診データを活かし、先進の予防医療や治療サポートのほか、会員様一人おひとりに特化したメディカルサポートを提供しています。全米ホスピタルランキング*で、21年連続1位の実績を持つアメリカの医療機関「ジョンズ・ホプキンス・メディスン・インターナショナル」と国内唯一の業務提携により世界トップクラスの医療サービスを提供しており、専門医師の監修による化粧品やサプリメントの開発にも力を入れています。さらには、メディカル事業とホテルレストラン事業のノウハウとネットワークを用いて有料老人ホームやシニアレジデンスの運営も行い、お客様のより豊かな生活をサポートし、質の高いサービスを多面的に提供しています。

今後も、リゾートトラストグループならではのシナジーを活かし、新商品の立案や事業間の連携を進め、15万人以上の会員の皆様へ価値ある新しいサービス・商品を提供することで、当社グループの成長を加速させていきます。

*U.S. News & World Report 誌公表



2014年3月期(当期)の事業概況

2013年度は世界経済が緩やかな拡大を続け、国内では2012年末の政権交代以降、景況は緩やかながらも着実に回復を果たしつつあり、明るい兆しが随所に見られました。このような環境下、当社グループの状況は、重点事業として育成しているメディカル事業が非常に好調に推移し、全社業績の牽引役となりました。これは、1994年の「ハイメディック山中湖」開業以来、メディカル事業を本格的な少子高齢化社会に向けた最重要戦略の一つと位置づけて積極的な投資を行い、ホスピタリティを追求・実現してきたからだと考えております。また、会員権事業やホテルレストラン等事業といった主力事業も堅調に推移し、当期を終えることができました。

以上の結果として、連結売上高は116,824百万円(前期比10.9%増)、営業利益は15,119百万円(同25.4%増)、経常利益は16,731百万円(同28.9%増)、当期純利益は前期比20.7%増加し8,605百万円となり、過去最高の経営成績を達成することができました。

売上・利益ともに過去最高の実績を糧に 新たな価値の創造に挑戦



グランドエクシブ鳴門

新たなスタートでさらなる飛躍を実現

2013年4月に発表した中期経営計画「Next40」は、会員制リゾート事業のさらなる飛躍とメディカル事業の拡大を通じ、より広いステージでお客様に新たな価値を提供し続けることで、5年後の利益倍増を目指した計画です。スタートから約1年が経過いたしました。事業環境にも恵まれ、早くも各事業で多くの成果が上がり始めました。その代表例が先に申し上げましたメディカル事業の躍進です。このほかにも、5年間の計画期間中には、既に着工し販売を開始した会員制リゾート施設「エクシブ鳥羽別邸」をはじめ、計5件以上の新規リゾート施設着工を予定しております。2016年春に開業予定となる「エクシブ鳥羽別邸」に続き、他のリゾート開発も着々と進行しております。

この2014年3月期は、創業40周年を迎えた記念すべき年でもありましたが、新たな計画で絶好のスタートを切ることができたことを大変ありがたく受け止めております。また同時に、当計画のゴールである2018年3月期までに、乗り越えるべき多くの課題に取り組むべく、身を引き締めこれに挑戦してまいります。

今後も「これまで築き上げてきた基盤とグループ力を最大限に発揮し、新たな価値の創造に挑戦する」という当計画のビジョンに則ってさらなる飛躍を実現し、お客様のみならず多くのステークホルダーの皆様の「輝く人生」の実現に貢献してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも当社グループへのご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2014年6月

代表取締役会長 (CEO) 伊藤 興明
(写真左)

代表取締役社長 (COO) 伊藤 勝康
(写真右)



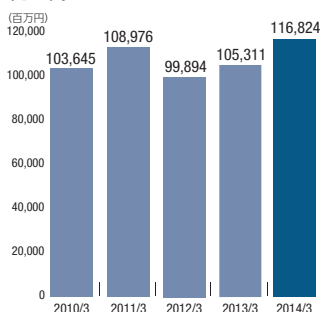
次なる成長に向けて 好スタートを切りました

当期は中期経営計画「Next40」の初年度となりました。変化する環境にいち早く対応する柔軟な事業展開で、人材を第一とするグループ力を最大限に発揮できる価値創造に取り組んでいきます。

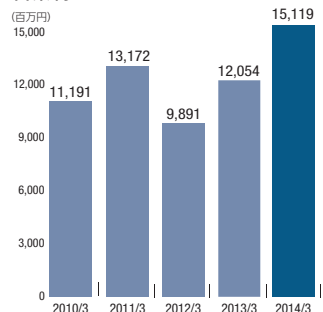
Q1

2014年3月期の業績を どう評価していますか。

売上高



営業利益

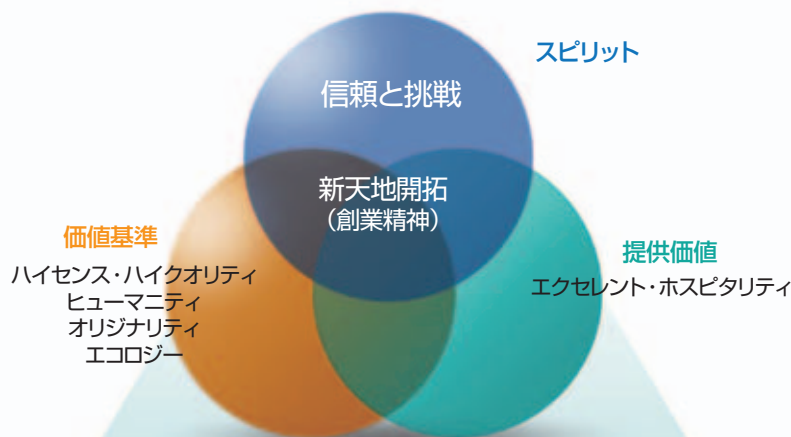


当連結会計年度における日本経済は、新政権による経済政策、生産、雇用の回復、消費税率引き上げ前の個人消費の高まりなど、随所に好転の兆しが見られた年となりました。余暇市場においても、アベノミクスによる消費マインドの喚起で活況を取り戻してきました。このような環境の中、当社グループは当期、会員制リゾート施設「エクシブ鳥羽別邸」の会員権の販売を開始したほか、メディカル会員権やホテル会員権の販売が好調に推移しました。また、サンメンバーズリゾート施設「リゾートピア箱根」がリニューアルオープンし、「ホテルトラスティ」7施設目となる「ホテルトラスティ金沢 香林坊」が新規開業しました。これらにより業績は順調に推移し、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の過去最高を更新しました。

これまで、リーマンショックと東日本大震災により施設の開発計画を見直し、設計変更等も行ったため、この5年間で新たに着工し、開業できたリゾート施設はわずか1カ所でした。そのような状況下で当期の全社業績の牽引役となったのが、メディカル事業です。総合メディカルサポート倶楽部「グランドハイメディック倶楽部」の会員権販売が好調に推移したことに加え、会員数の増加に伴い年会費収入なども増加し、大幅な増収増益となりました。また、前述の「エクシブ鳥羽別邸」は海沿いに建つため、津波災害に対する備えを熟考した設計変更により、着工を1年遅らせ2016年開業予定としています。2014年1月に会員権を発売しましたが、会員様からご好評をいただき、現在非常に売れ行きが好調です。安全・安心を第一とする施設をご提供したいという基本的な考えを会員の皆様にご理解いただけ、そして会員の皆様に受け入れられる新商品として提供できたこともまた、業績に寄与したと考えています。

リゾートトラストグループ
「理念」

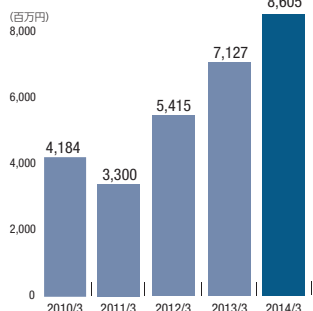
リゾートトラストグループ
「行動規範」



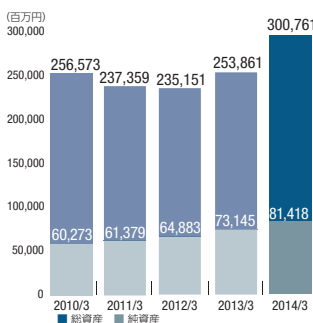
「ホスピタリティ憲章」

VISION ビジョン 私たちが目指すべき姿	私たちは、ハイセンス・ハイクオリティを追求する、エクセレント・ホスピタリティ・グループです。
MISSION ミッション 私たちの使命	私たちは、人生を謳歌する しなやかな生き方に貢献します。
AMBITION アンビション 私たちのモットー	私たちは、自らの人生を輝かせるために、日々のお会いと感動を大切にします。
VALUE バリュー 私たちの価値観	私たちは、お客様や社会との信頼を基盤として、常に挑戦しつづけます。

当期純利益



総資産・純資産



財務ハイライト(連結)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
会計年度:	百万円				
売上高	103,645	108,976	99,894	105,311	116,824
営業利益	11,191	13,172	9,891	12,054	15,119
経常利益	10,916	13,341	9,443	12,976	16,731
当期純利益	4,184	3,300	5,415	7,127	8,605
会計年度末:	百万円				
総資産	256,573	237,359	235,151	253,861	300,761
純資産	60,273	61,379	64,883	73,145	81,418
1株当たり情報:	円				
当期純利益*1	45.3	35.7	58.0	75.4	88.4
潜在株式調整後当期純利益*1	45.3	35.5	57.9	74.6	83.4
純資産*2	576.4	585.9	628.2	686.9	758.6
配当金*3	17.5	15.0	20.0	27.5	31.0
主な指標:	%				
総資産当期純利益率 (ROA)	1.7	1.3	2.3	2.9	3.1
自己資本当期純利益率 (ROE)	8.1	6.1	9.5	11.4	12.2
配当性向	38.6	42.0	34.5	36.5	35.1

注)・各会計年度は3月31日で営業期間が終了した年を表記しております。

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表しております。

・1株当たり情報及び主な指標については、小数点第2位で四捨五入して表しております。

・2014年1月1日をもって、当社株式を1株につき2株の割合で分割しております。

*1 1株当たり当期純利益は、当該株式分割が各連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

*2 1株当たり純資産は、当該株式分割が各連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

*3 1株当たり配当金は、当該株式分割を考慮して遡及修正した数値を記載しております。

Q2

特に医療事業が好調であった要因をどのように分析されますか？

当社グループの医療事業は、1994年の「ハイメディック山中湖」の開設からスタートしました。医療事業は、医療は医療法人に、我々はシステムの運営・お客様の情報管理と、専門分野における役割を明確にし、かつリゾートと医療を融合させたビジネスモデルを構築したことに、大きな優位性があります。また、医療事業を少子高齢社会における最重要戦略の一つと位置づけて積極的な投資を行い、ハイメディック山中湖では、PETやMRI、PET/CT等の先端医療機器を先駆けて検診に取り入れました。検診実績を着実に積み上げ、従来では見過ごされがちだった微小な病変をとらえる検診システム「山中湖方式」を構築したのですが、他の一般的な人間ドックと比較しても非常に高いがん発見率を実現するなど、このシステムは世界中から評価されました。最先端の診断機器を複数用いた、専門分野で経験と実績を積まれた医師による診断で、20年前では難しかったがん、脳疾患や心臓疾患などの早期発見につながるこの検診システムにより、私たちの認知度も高まりました。

また、東京大学大学院医学系研究科に検診技術を研究する寄附講座の開設や、国立がん研究センターとの共同研究契約の締結などにより、医療・研究機関との連携を通じて、常にエビデンス(医学的根拠)に基づいたソリューションを提供できる体制を構築していることにより、高い評価が定着しています。

特に、医療事業の拡大は、このあとご説明する中期経営計画においても基本戦略になっています。当期は、2013年7月に発売した「グランドハイメディック倶楽部」の新商品「ハイメディック・ミッドタウン」の会員権が大変ご好評をいただいたほか、高齢者用住居(シニアレジデンス)の取得、介護付有料老人ホームの事業承継についても着実に実行することができました。

リゾートホテルの開発と運営で培ったノウハウを基に、各専門分野での最先端の取り組みによる差別化が、当社グループの成長を牽引していると考えています。今後も積極的な事業展開で、医療事業をさらに成長拡大させていきます。

Q3

「Next40」の進捗状況について教えてください。

日本経済全体が良くなってきている市場環境にも支えられ、多くの事業が成果を上げ始め、上々のスタートを切ることができました。2014年4月1日付で、組織体制強化のため、これまでの4事業本部体制を3本部体制(会員制本部、ホテルレストラン本部、医療本部)としました。15万人以上の優良顧客から成る会員権事業、その会員の皆様楽しんでいただくためのホテルレストランの事業、そして皆様の健康を保つ医療事業、我々グループの使命を果たすにふさわしいこの3事業は、今後のグループ成長を担う大きな柱です。また、3本部体制への移行により、投資案件の選定も含め、各々の本部長へ権限を委譲しており、制度面からもこの5ヵ年計画を確実にしていきます。

高齢社会が進む日本では、70代のアクティブシニア層の台頭により、ピークアウトが従来考えていた時期よりもかなり先へ延びるものと想定されます。これまでに取得した各種物件も、継続的なリゾート施設の開発や、医療施設のさらなる充実に向け最大限活用するとともに、良い物件に対してはこの計画以上に積極的に投資をして、成長を加速させていきたいと思っています。

また、日本の少子高齢社会は、決して悲観する将来ではありません。変化していく環境に対応する新しい商品やサービスをどう提供していくかが、企業の持続的成長を握る鍵となります。具体的には今後、都市近郊だけでなく、北海道や沖縄、あるいは海外で4、5日間滞在できるようリゾートの仕組みや施設の開発を目指していきます。そして、介護付きだけに限定されずサービスや住居を充実させたシニアレジデンスの開発や、さらには、2020年の東京オリンピック開催に向け、海外観光客を取り込むための仕組みも、次の取り組みと考えています。

Next40を成功させるための課題は、人材の育成です。最も大切なことは、仕事を楽しめる人

材を育てること。仕事を楽しめるか否かで生産性が大きく変わってきます。また、経営層だけではなく、次世代を担う従業員にまで権限を委譲し、彼らが個々の能力を発揮しやすい、しかもグループの垣根を越えて活躍できる人材を育成していくことが課題です。

Q4

2015年3月期の見通しは
いかがでしょうか？

国内景況は引き続き回復基調をたどるとみています。幸いにも、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要への反動の影響は軽微にとどまる見込みですが、引き続き、増税後の需要を確保するための営業努力を続けていきます。

「エクシブ鳥羽別邸」の会員権販売に続き、2014年秋ごろには「エクシブ」シリーズの新展開として、関東地区でのホテルの開発着工及び会員権販売を予定しています。ただし、これらの未開業物件の不動産にかかる収益は、ホテル開業時まで繰り延べられることなどから、当社グループ全体の売上高114,600百万円(前期比1.9%減)、営業利益15,200百万円(同0.5%増)、経常利益15,900百万円(同5.0%減)、当期純利益9,800百万円(同13.9%増)を見込んでいます。なお、当期純利益については、当期発生した特別損失が無くなることなどにより、過去最高を更新する見通しです。

Q5

CSR についての考えを
聞かせてください。

日本は森林率が約70%と国土の2/3が森林で、世界でもトップクラスの森林国ということが出来ます。ですから、緑化維持がこの国の良さを保つ一番の基本だと考えています。リゾート産業でも自然環境との共存を図りながらの施設開発が、私たちの使命です。これまでにも伐採した本数以上の植樹を行い、グループを挙げて自然環境の維持・保全に努めているほか、ISO14001(環境マネジメントシステム規格)の取得にも積極的に取り組んでいます。

また当社グループでは、障がい者雇用をCSR活動の一環と位置づけ、職域開拓と雇用の促進を図っています。2014年1月には、天皇皇后両陛下が、リゾートトラスト東京本社事務支援センターをご視察されました。同センターでは、障がいを持つ従業員がダイレクトメールの作成や製本業務などを行っており、両陛下が従業員を激励してくださいました。

今後も、日本のリゾート産業をリードする私たちの役割として地球環境保全に貢献し、社会とともに発展する企業を目指していきます。

Q6

投資家の皆様への
メッセージをお願いします。

3本部による新体制の下、会員権事業、ホテルレストラン等事業、メディカル事業の3つの事業で確実に収益を上げるとともに、複合・周辺事業の充実や海外観光客の取り込みなど、新たな取り組みに挑戦していくことで、成長を実現してまいります。

株主様への還元については、早期回収ビジネスモデルによる潤沢な資金力を背景に、配当性向30%を確約し、さらに40%を目指し、安定的に還元することとまいります。



事業運営にあたってはこれまでと同様、持続的成長に必要な内部留保とのバランスを取りつつ、積極的・機動的なM&Aなどを通じて新たな成長投資に向けた資金配分を行い、今後も資本効率の良い経営を追求してまいります。

築き上げた基盤とグループ力を最大限に発揮し、新たな価値の創造に挑戦

国内外の事業環境は今、大きな変化の過渡期にあります。当社グループは、リゾート事業において蓄積してきた強み・事業基盤を活かして、新たな価値を創造し、より広いステージでお客様との新たな関係を築き上げることにより、成長をさらに加速させていきます。

当社HPに中期経営計画「Next40」の詳細を掲載しております。併せてご覧ください。

http://www.resorttrust.co.jp/ir/investors/plan/pdf/keikaku_130401.pdf

中期経営計画「Next40」では、国内リゾートクラブ事業における圧倒的優位性、約15万人の富裕層会員、最先端メディカル事業のノウハウを活かし、さらなる成長に向けて、グループ力を最大限に発揮した事業の創造と確立を図ります。そして、3つの基本戦略を実現するため、人材基盤・グループ力の強化にも注力していきます。

1. 会員制リゾート事業のさらなる充実と永続モデルの確立
2. メディカル・シニアライフ事業の拡大
3. グループ総合力を活かした複合・周辺事業の拡大

人材基盤・グループ力の強化

5カ年定量計画

売上高・利益	(単位: 億円)		
	2014/3 (実績)	2016/3 (中計3年目)	2018/3 (中計5年目)
売上高	1,168	1,200	1,500
営業利益	151	160	240
経常利益	167	160	240
当期純利益	86	100	150

(指標)

ROA	3.1%	4.2%	6.1%
ROE	12.2%	12.9%	15.7%

セグメント別の売上高・営業利益 (単位: 億円)

2014年3月期(実績)

	会員権事業	ホテルレストラン等事業	ゴルフ事業	メディカル事業	その他	合計
売上高	322	578	86	173	9	1,168
構成比	28%	49%	7%	15%	1%	100%
営業利益	58	47	6	37	3	151
構成比	38%	31%	4%	25%	2%	100%

2018年3月期(中計5年目)

	会員権事業	ホテルレストラン等事業	ゴルフ事業	メディカル事業	その他	合計
売上高	490	700	95	200	15	1,500
構成比	33%	47%	6%	13%	1%	100%
営業利益	120	60	9	44	7	240
構成比	50%	25%	4%	18%	3%	100%

注) 2014年4月1日付の組織変更に伴い、2015年3月期より、ゴルフ事業は会員権事業及び一部ホテルレストラン等事業に含まれます。

会員権事業

徹底した顧客ニーズの深掘りと、開発力・営業力の強化により、年5%以上の契約高成長を目指す

ブランド浸透、顧客ターゲットに合わせた商品開発によ

り、関東圏における販売力を強化します。また、M&Aなども視野に入れるほか、時代のニーズ、多様化する会員ニーズに合わせた多様な商品開発を進めます。

ホテルレストラン等事業

ライフサイクルモデルの確立に取り組み、ストック型ビジネスとしての永続的成長を目指す

会員満足のさらなる追求を基本としながら、会員増加による収益を高めるとともに、顧客との親密度を高めることで

利用営業を強化し、稼働率を向上させます。さらに複合型施設などの展開や、多様なコンセプトに合わせたオペレーションスタイルの確立を図っていきます。

ゴルフ事業

新たな顧客層の開拓とグループ事業との連携により、収益拡大を目指す

徹底した差別化による高単価政策、当社グループならではのハイセンス・ハイクオリティなゴルフ事業を追求していき

ます。またグループ事業の連携によりシナジーを創出し、複合型施設の開発・販売、シニア・レディス向け商品・サービスを強化します。

メディカル事業

早期発見から、予防、健康寿命の長期化まで、高いクオリティ・オブ・ライフを幅広くサポート

ハイメディック事業では、都市部での展開強化を推進し、会員数拡大・販路拡大するとともに、現在(2013年3月末)の3拠点から5拠点体制へ拡充します。ミッドタウン事業では、シニア医療、訪問サービスなどシニアライフ事業との連携を強化します。また、がん治療やアンチエイジングの商品化による収益拡大を図ります。



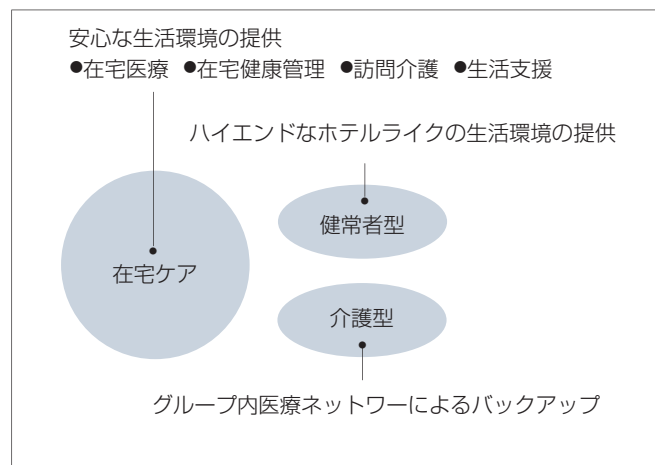
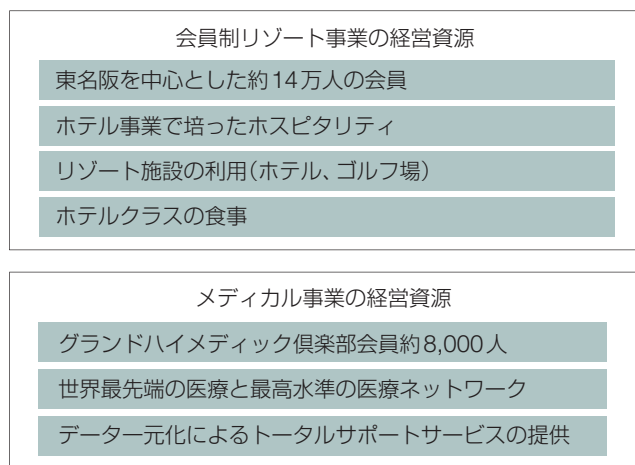
シニアライフ事業

クオリティ・オブ・ライフを重視した、健康年齢に応じたサービスの提供

既存会員を潜在顧客とする効果的な顧客開拓を進めるとともに、早期に2,500室体制を目指します(2013年3月末

現在のシニアレジデンス室数は528室)。さらに、海外シニアライフ事業の展開を進め、海外事業の基盤構築に努めます。

当社グループならではのシニアライフ事業の展開(2013年3月末現在)



複合・周辺事業

会員制リゾート事業で培った当社グループならではのホスピタリティを活かし、事業領域・顧客層・展開エリアを積極的に拡大

既存事業を組み合わせた複合事業の展開や、セカンドライン、旅館再生、通販・コンシェルジュサービス、レストラン受託、海外事業など周辺事業にも注力していきます。

事業領域と沿革

リゾートトラストは、1973年、宝塚エンタープライズ(株)の設立(名古屋市)に始まります。翌年、第一号施設「ヴィア白川」(愛知県)と、「サンメンバーズひるがの」(岐阜県)を開業。その後、1986年にリゾートトラスト(株)に商号を変更し、1987年には、高級会員制ホテル「エクシブ」シリーズ第一号「エクシブ鳥羽」(三重県)を開業しました。



サンメンバーズひるがの



エクシブ鳥羽

以降、会員数を確実に増加させるとともに、リゾート業界を牽引してきました。現在は、会員制リゾートホテルの開発と運営で培ったノウハウを医療や介護の分野に活かし、事業領域の拡大を図っています。今後は、複合・周辺事業への展開を進め、さらなる成長に向けて事業を推進していきます。

会員権事業

東京、名古屋、大阪に近く利便性の高い、高級会員制リゾートホテルの開発と会員権の販売

その他 0.8%

不動産の賃貸業務等

メディカル事業

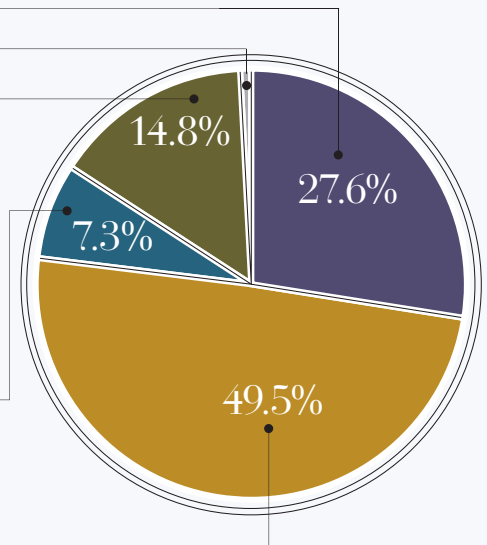
高品質な健康関連サービスを提供する総合メディカル事業及び有料老人ホームの運営

ゴルフ事業

名門の名に値する高いグレードを誇るゴルフコースの開発及び運営

ホテルレストラン等事業

本物志向の設備、料理、サービスを核とするホテル・レストランの運営

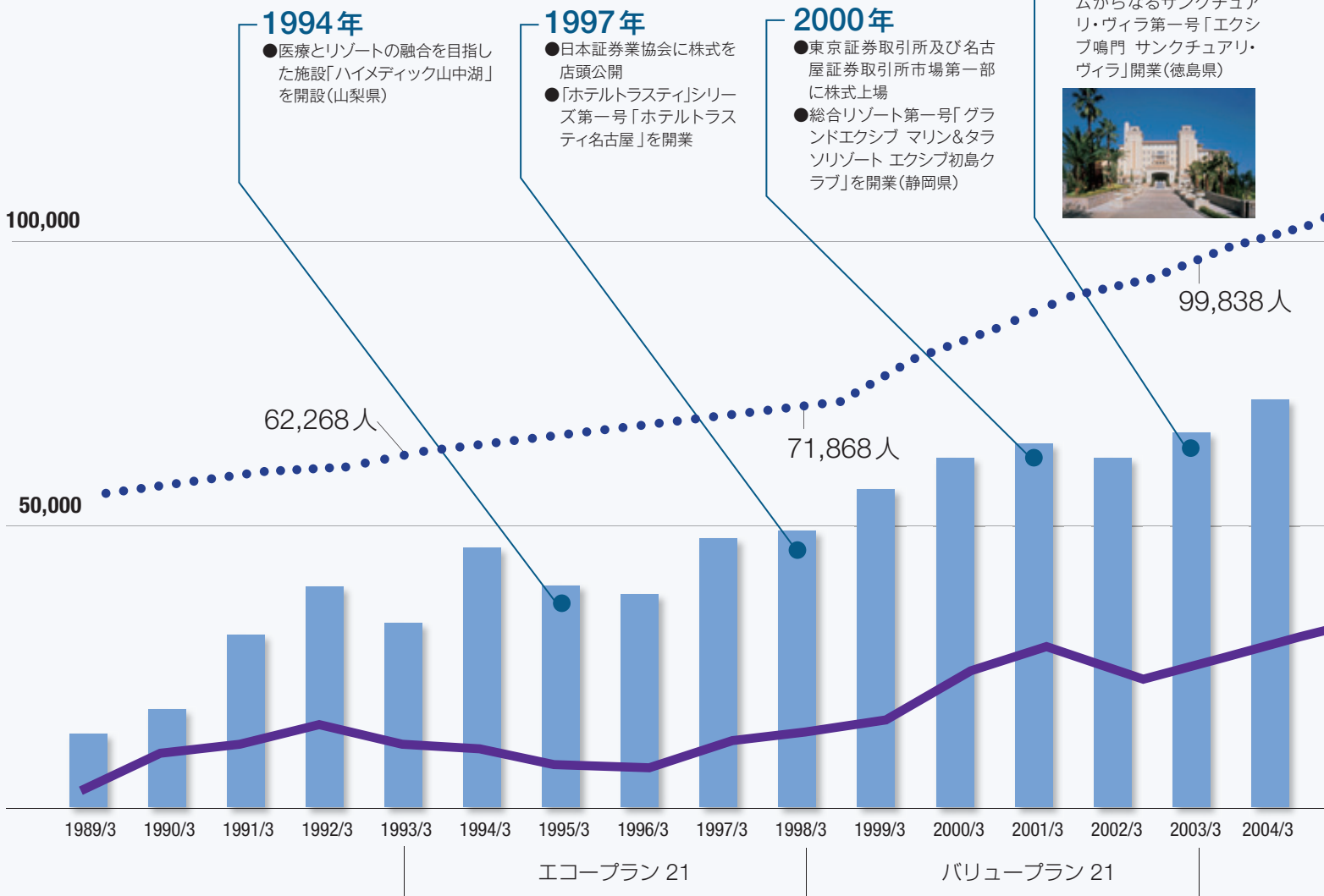


売上高構成比(2014年3月期)

売上高(百万円)

150,000

会員数 ●●●● 売上高 ■ 営業利益 ■



2006年

- 「離宮」シリーズ第一号「エクシブ京都 八瀬離宮」を開業



- 介護付有料老人ホーム「クラシックガーデン文京根津」(東京都)を取得



2007年

- 「東京ミッドタウンメディカルセンター」を開業



2008年

- 「東京ベイコート倶楽部ホテル&スパリゾート」を開業

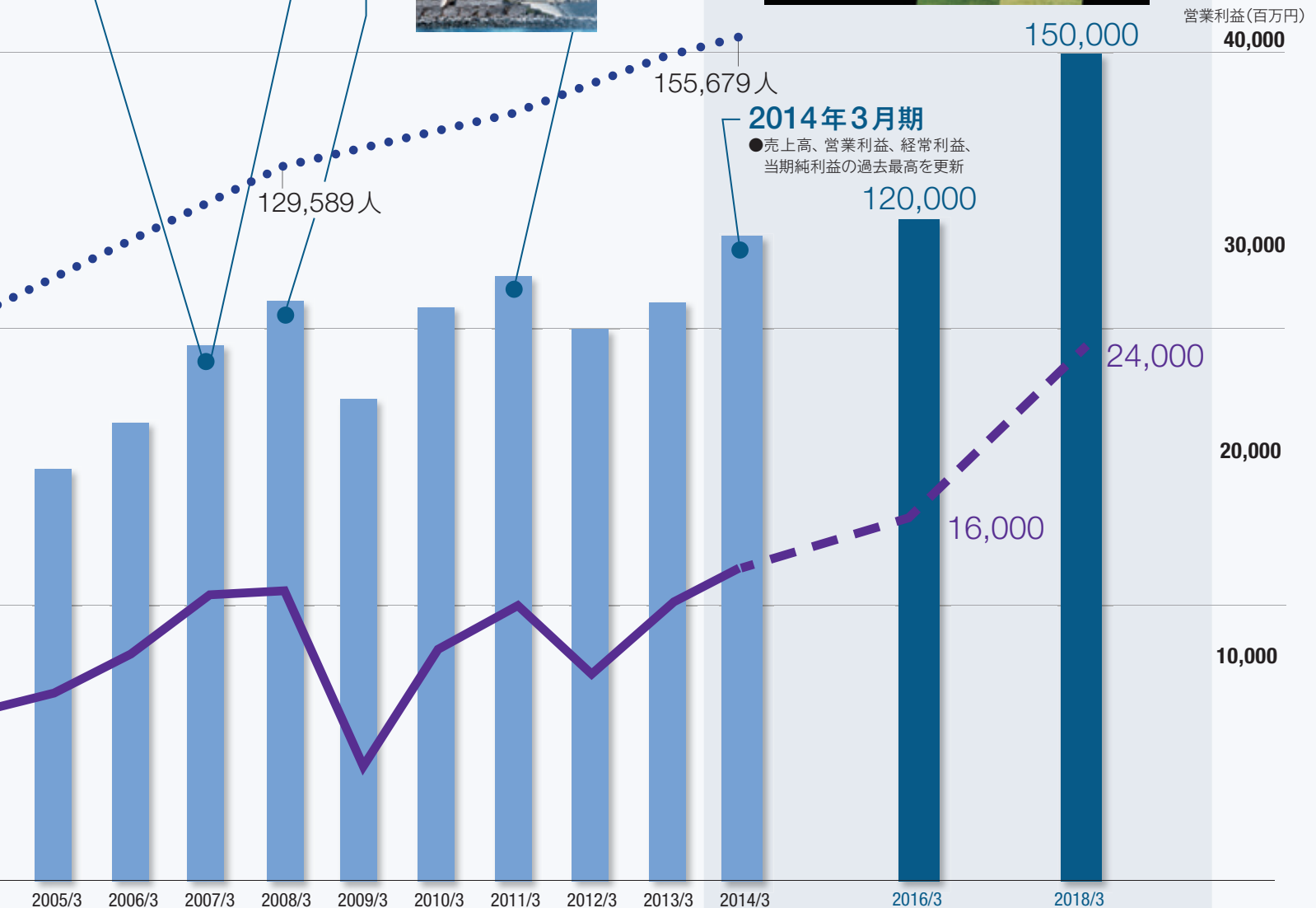


2010年

- トラストガーデン(株)を子会社化し、介護付有料老人ホーム「トラストガーデン」4施設を取得(東京都)



2013年4月 中期経営計画「Next40」 (2013/4/1～2018/3/31)発表



2014年3月期

- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の過去最高を更新

Next40 計画
詳細は16ページをご参照ください。

パワー・ブランド計画

エクセレント・ホスピタリティ計画

セグメント区分の変更について

当社は、事業運営体制強化のため、2014年4月1日付で、4事業本部体制を3本部体制（会員制本部、ホテルレストラン本部、メディカル本部）とする組織変更を実施いたしました。これに伴い2015年3月期より、セグメント区分も以下の通りに変わります。

2014年3月期 までのセグメント	2015年3月期 からのセグメント
会員権事業	▶ 会員権事業
ホテルレストラン等事業	▶ ホテルレストラン等事業
ゴルフ事業*	メディカル事業
メディカル事業	その他
その他	

*ゴルフ事業は、会員権事業と一部がホテルレストラン等事業に吸収されます。

新セグメントにおける2015年3月期の見通し

会員権事業

主に「エクシブ鳥羽別邸」や新たに関東地区で開発予定の物件など、未開業物件の会員権販売の増加を見込んでおりますが、未開業物件の不動産収益は、ホテル開業時まで繰り延べられることなどにより、減収減益を見込んでおります。

売上高: 31,920百万円 (前期比12.0%減)

営業利益: 5,730百万円 (前期比7.8%減)

ホテルレストラン等事業

当期にリニューアルしたホテルや新規開業したホテルなど既存施設の稼働率向上が収益に寄与するほか、当期に行ったホテル修繕費や、施設のLED化の費用が減少することなどにより、増収増益を見込んでおります。

売上高: 62,900百万円 (前期比1.0%増)

営業利益: 5,350百万円 (前期比9.0%増)

メディカル事業

総合メディカルサポート倶楽部「グランドハイメディック倶楽部」の会員数増加に伴う年会費収入の増加のほか、事業拡大しているシニアレジデンスの稼働向上などにより増収となる一方で、検診体制充実のためなどの費用の増加及び会員権販売の減少などにより、増収減益を見込んでおります。

売上高: 18,100百万円 (前期比4.4%増)

営業利益: 3,580百万円 (前期比4.4%減)

会員権事業

2014年3月期の業績

売上高は32,171百万円(前期比13.2%増)、営業利益は5,839百万円(前期比47.8%増)となりました。ホテル会員権の販売が順調に推移したほか、2014年1月より「エクシブ鳥羽別邸」の販売を開始し、その新規発売効果などにより、増収増益となりました。

ホテルレストラン等事業

2014年3月期の業績

売上高は57,784百万円(前期比5.5%増)、営業利益は4,733百万円(前期比1.9%減)となりました。2013年4月にサンメンバーズリゾート施設「リゾートピア箱根」がリニューアルオープンし、また同年6月には「ホテルトラスティ」7施設目となる「ホテルトラスティ金沢 香林坊」が新規開業し収益寄与した一方で、ホテル照明設備のLED化など修繕維持費が増加したことなどにより、増収減益となりました。

ゴルフ事業

2014年3月期の業績

売上高は8,623百万円(前期比0.6%減)、営業利益は549百万円(前期比11.0%減)となりました。(株)関西ゴルフ倶楽部において、ゴルフ会員権の販売量が前年同期に比べ減少したことなどにより、減収減益となりました。

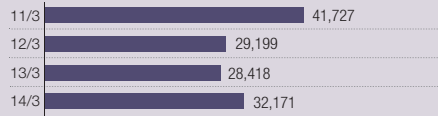
メディカル事業

2014年3月期の業績

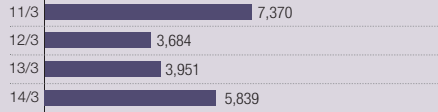
売上高は17,341百万円(前期比36.6%増)、営業利益は3,743百万円(前期比60.3%増)となりました。会員数の増加に伴い年会費収入が増加したことに加え、メディカル会員権の販売が好調に推移したことなどにより、増収増益となりました。



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

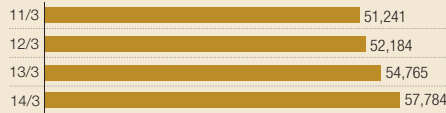


トピックス

- 神奈川県箱根町強羅で新規ホテル用地取得を発表 (2013年8月8日公表)
- 「エクシブ鳥羽別邸」会員権販売開始 (2014年1月20日)
- 会員制リゾートホテル「芦屋浜ベイコート倶楽部 (仮称)」につき、潮芦屋海洋町フリーゾーン事業における事業者に決定 (2014年3月7日)



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

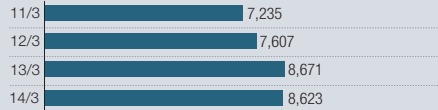


トピックス

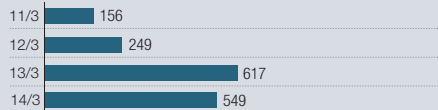
- 「リゾートピア箱根」リニューアルオープン (2013年4月25日)
- 「ホテルトラスティ金沢 香林坊」グランドオープン (2013年6月9日)
- 「リゾートトラスト メガソーラー那須白河」を運営開始 (2014年4月1日)



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

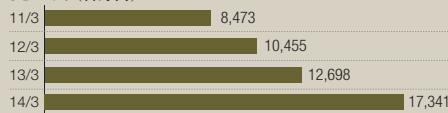


トピックス

- 第21回「リゾートトラストレディス」開催 (2013年5月31日～6月2日 関西ゴルフ倶楽部)
- 第22回「リゾートトラストレディス」開催 (2014年5月30日～6月1日 関西ゴルフ倶楽部)
- 「ダンロップ・スリクソン福島オープンゴルフトーナメント」開催 (2014年7月31日～8月3日 グランディ那須白河ゴルフクラブ)



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



トピックス

- グランドハイメディック倶楽部「ハイメディック・ミッドタウン」会員権販売開始 (2013年7月4日)
- 介護付有料老人ホーム「トラストグレイス御影」新規入居者募集開始 (2013年11月1日)
- 介護付有料老人ホーム「トラストガーデン等々力」開業 (2014年4月1日)
- トラストガーデン (株) が介護付有料老人ホーム「遊雅 東嶺町」を取得、運営開始 (2014年5月1日)

PRIVATE RESORT **XIV** エクシブ



エクシブ京都 八瀬離宮

「エクシブ」は、大都市から2～3時間で足を運べる著名な観光地という立地条件、ハイグレードな施設と「会員制ならではの」のサービスが高い評価を得ています。

GRAND XIV



グランドエクシブ初島クラブ

「グランドエクシブ」はゴルフやスパ・エステ、マリンスポーツ、ウインタースポーツなども楽しみたいという会員様の声から生まれた複合型リゾート施設です。

SANCTUARY VILLA

サンクチュアリ・ヴィラ



エクシブ鳴門 サンクチュアリ・ヴィラ ドゥーエ

「サンクチュアリ・ヴィラ」は静寂の中でゆっくり寛ぎたいといった会員様の声から生まれた、全室スーパースイートルームからなる施設です。

TOKYO BAYCOURT CLUB
HOTEL & SPA RESORT

東京ベイコート倶楽部ホテル & スパリゾート



大都市の中にありながら寛ぎと心の充足を提供する最上級のリラクゼーション・スペースとして誕生した日本初の「都市型会員制リゾート」です。

SUN MEMBERS



リゾートピア箱根

「サンメンバーズ」シリーズは、1974年より当社が初めて手掛けたホテルシリーズで、現在でも多様なニーズに応え、多くの方々からご愛顧いただいています。

HOTEL TRUSTY



ホテルトラステイ金沢 香林坊

「ホテルトラステイ」シリーズは「Stylish」、「Comfortable」、「Valuable」をコンセプトに、ゆったりとした客室とモダンな設計が特徴です。

ゴルフコース



ジャック・ニクラウス、ピート・ダイ、ロバート・トレント・ジョーンズ Jr. などの一流設計者の手による、完全会員制のハイクオリティなゴルフクラブを全国で展開しています。

メディカル施設



「ハイメディック山中湖」「ハイメディック大阪」
「ハイメディック・東大病院」「ハイメディック・ミッドタウン」の4拠点を軸に、
最高水準の総合メディカルネットワークで医療サービスを提供しています。

シニアレジデンス



「トラストガーデン用賀の杜」「クラシックガーデン文京根津」など
介護付高級有料老人ホームは、医療ネットワークを備え
充実したサービスを提供しています。

リゾートトラスト ネットワーク

(2014年6月30日現在)

- エクシブ 24 施設 (開発中1施設含む)
- サンメンバーズ 13 施設
- ベイコート倶楽部 1 施設
- ホテルトラスティ 7 施設
- ゴルフ場 13 カ所
- メディカル施設 4 カ所
- シニアレジデンス 10 カ所
- スキー場 1 カ所

京都府

- エクシブ京都 八瀬離宮
- サンメンバーズ京都嵯峨
- リゾーピア久美浜

兵庫県

- エクシブ有馬離宮
- サンメンバーズ神戸
- ホテルトラスティ神戸 旧居留地
- トラストガーデン宝塚
- トラストグレイス御影
- 関西ゴルフ倶楽部
- エクシブ淡路島

徳島県

- エクシブ鳴門
- エクシブ鳴門 SV
- エクシブ鳴門 SV ドゥーエ
- グランディ鳴門ゴルフクラブ 36

大分県

- リゾーピア別府

鹿児島県

- サンメンバーズ鹿児島

滋賀県

- エクシブ琵琶湖
- ザ・カントリークラブ

大阪府

- サンメンバーズ大阪梅田
- ホテルトラスティ大阪 阿倍野
- ホテルトラスティ心斎橋
- ハイメディック大阪

岐阜県

- サンメンバーズひるがの
- スプリングフィールドゴルフクラブ

和歌山県

- エクシブ白浜
- エクシブ白浜アネックス

奈良県

- オークモントゴルフクラブ

三重県

- グレイスヒルズカントリー倶楽部
- エクシブ鳥羽/エクシブ鳥羽アネックス/エクシブ鳥羽別邸 (開発中)

愛知県

- バインズゴルフクラブ
- セントクリークゴルフクラブ
- ザ・トラディションゴルフクラブ
- サンメンバーズ名古屋白川
- サンメンバーズ名古屋錦
- ホテルトラスティ名古屋
- ホテルトラスティ名古屋 栄
- モーニングパーク主税町

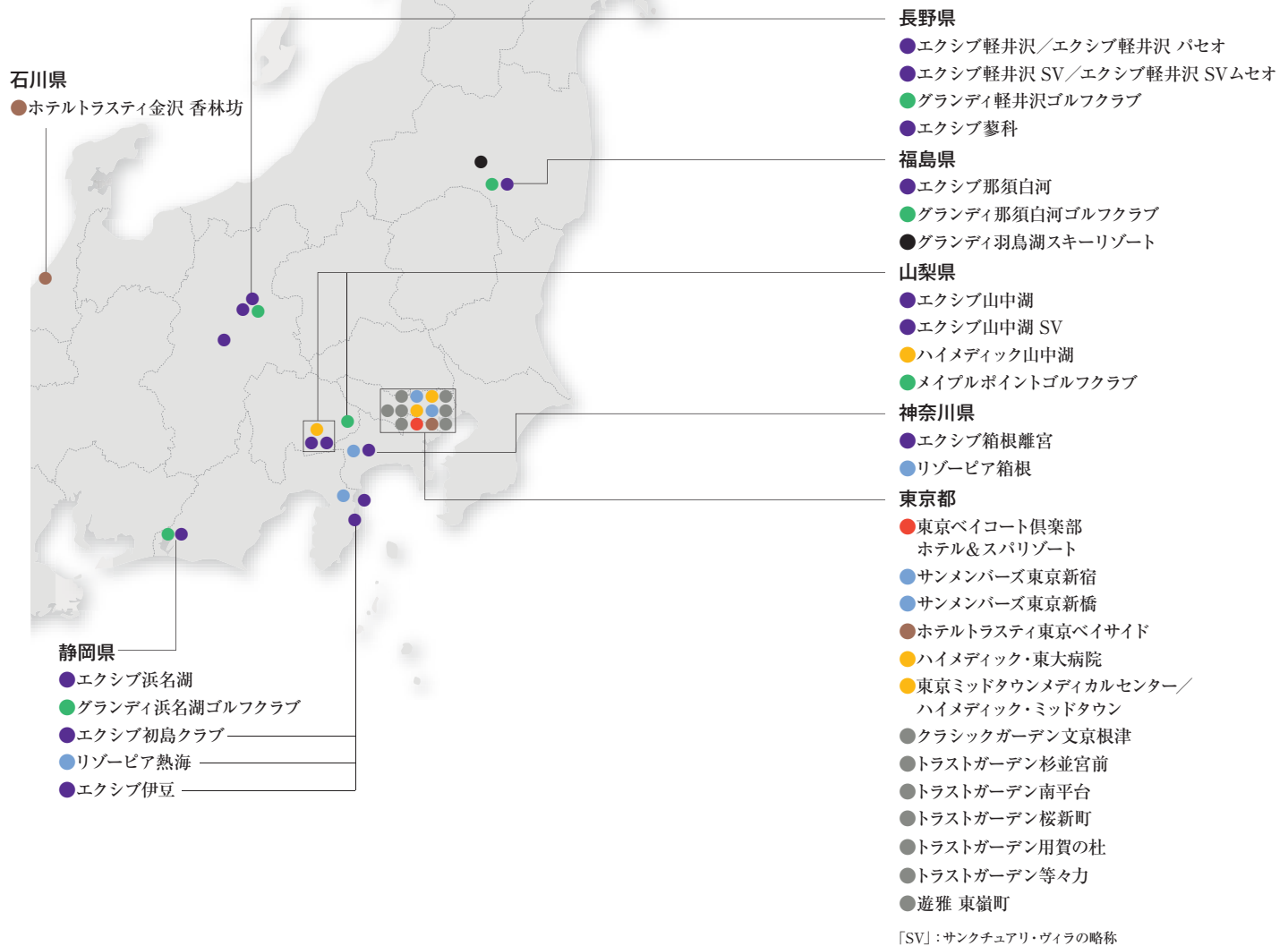
[SV] : サンクチュアリ・ヴィラの略称

ホテル施設一覧

施設名	開業年	部屋数
ベイコート		292
東京ベイコート倶楽部	2008	292
エクシブ		3,257*
エクシブ鳥羽	1987	207
エクシブ伊豆	1988	227
エクシブ白浜	1989	104
エクシブ軽井沢	1990	200
エクシブ鳥羽アネックス	1991	198
エクシブ淡路島	1992	109
エクシブ山中湖	1993	252
エクシブ白浜アネックス	1993	144
エクシブ琵琶湖	1997	268
エクシブ蓼科	1999	230

*開発中物件含まず

エクシブ初島クラブ	2000	200
エクシブ鳴門	2001	135
エクシブ鳴門 サンクチュアリ・ヴィラ	2003	22
エクシブ浜名湖	2004	193
エクシブ軽井沢 サンクチュアリ・ヴィラ	2004	40
エクシブ那須白河	2005	58
エクシブ鳴門 サンクチュアリ・ヴィラ ドゥーエ	2005	22
エクシブ京都 八瀬離宮	2006	210
エクシブ山中湖 サンクチュアリ・ヴィラ	2009	28
エクシブ箱根離宮	2010	187
エクシブ有馬離宮	2011	175
エクシブ軽井沢 サンクチュアリ・ヴィラ ムセオ	2012	16
エクシブ軽井沢 パセオ	2012	32
エクシブ鳥羽別邸 (開発中)	2016 (開業予定)	121



施設名	開業年	部屋数
サンメンバーズ		1,191
サンメンバーズ名古屋白川	1974	87
サンメンバーズひるがの	1974	36
サンメンバーズ大阪梅田	1978	69
サンメンバーズ名古屋錦	1979	79
サンメンバーズ東京新橋	1980	23
サンメンバーズ鹿児島	1980	105
サンメンバーズ京都嵯峨	1980	67
サンメンバーズ東京新宿	1982	181
リゾートピア熱海	1983	206
リゾートピア久美浜	1984	57
リゾートピア別府	1984	57
リゾートピア箱根	1984	171
サンメンバーズ神戸	1985	53

施設名	開業年	部屋数
トラスティ		1,415
ホテルトラスティ名古屋	1997	250
ホテルトラスティ名古屋 栄	2003	204
ホテルトラスティ心齋橋	2005	211
ホテルトラスティ東京ベイサイド	2008	200
ホテルトラスティ神戸 旧居留地	2009	141
ホテルトラスティ大阪 阿倍野	2012	202
ホテルトラスティ金沢 香林坊	2013	207

シニアレジデンス施設一覧

施設名	部屋数
シニアレジデンス	902
クラシックガーデン文京根津	51
モーニングパーク主税町	41
トラストガーデン杉並宮前	100
トラストガーデン南平台	41
トラストガーデン桜新町	84
トラストガーデン用賀の杜	129
トラストガーデン宝塚	86
トラストグレイス御影	281
トラストガーデン等々力	57
遊雅 東嶺町	32

RTTG and Our Environment

環境経営

リゾート産業は、豊かな自然環境のもとで成り立ちます。当社グループは自然環境と景観の維持をリゾート開発における基本とし、開発時に木を伐採した場合には伐採本数以上の植樹を行うなど、グループを挙げて自然環境の維持・保全に努めています。

当社グループでは、2005年にCSR活動理念と方針を策定し、地球環境への貢献を目的として、2005年度からISO14001（環境マネジメントシステム規格）の認証取得・維持・継続活動に取り組んでいます。2014年3月末現在、主要な32カ所の事業所が取得しています。



環境設計、植樹活動、緑化事業

当社の施設は環境設計を採用しています。例えば、開発以前から生えていた樹木を植栽計画に採用しており、やむを得ず伐る場合には必ずそれ以上の植樹をすることで、緑豊かな環境づくりを行っています。エクシブ箱根離宮は、景観と樹木の保全を重視する観点から、植樹の移植・再移植を実施しました。

グランディ浜名湖ゴルフクラブでは、「クローズドシステム」を採用しています。これは、農薬はグリーンのみまき、農薬を含むグリーンにまいた水は外へ流さず地下の貯水槽に溜まり、再びグリーンへ散水されるシステムで、ゴルフ場では全国で初めて当社が導入しました。



気候風土の変わらない土地へ仮移植して管理、育成

また、女子プロゴルフトーナメント「リゾートトラステレディス」は、毎年、入場券販売やチャリティイベントによる収益金の一部を開催地域の緑化事業発展のために寄贈しています。

ごみ堆肥化リサイクルとホタルプロジェクト

熱海沖の初島にあるグランドエクシブ初島クラブでは、生ごみを堆肥に変えて処理するプラントを設置し、ごみの排出量削減と島内で消費される肥料代の抑制に寄与しています。

また、初島の自然環境構築のために、NPO法人「ホタルの会」協力のもとホタルの放流を行っています。2013年6月には、ゲンジボタル1,200匹を放流し、毎年ホタルを放流すると同時に、自然にホタルが発生するように、全スタッフが整地整備に尽力しています。



グランドエクシブ初島クラブ敷地内の「ほたるの里」

リゾートトラスト メガソーラー那須白河 運転開始

2014年4月、グランドエクシブ那須白河のゴルフコース隣地の未利用地（福島県西白河郡西郷村）において、メガソーラー発電所「リゾートトラスト メガソーラー那須白河」（以下メガソーラー）の運転を開始しました。メガソーラーの初年度の想定年間発電量は約200万kWhで、これは一般家庭500世帯分の年間使用電力に相当します。このメガソーラーによって当社グループは、限りある化石燃料の使用量削減とエネルギーの安定供給の確保を目指し、環境との調和及び社会との共生を図っていきます。



リゾートトラスト メガソーラー那須白河

エコ・ステイのご提案

ホテルトラスティシリーズや一部のエクシブでは、連泊のお客様にエコな宿泊をご提案しています。部屋の清掃やアメニティ、タオル、シーツなどの交換を不要とされた際には、ミネラルウォーターのプレゼントや環境保護団体（WWF ジャパン）への寄付などに換えて、環境に貢献しています。

またグランドエクシブ鳴門は、2009年～2011年に実施した省エネ活動とその成果が認められ、電気の合理的・効率的な活用や省エネ推進活動を行う地域組織「四国地方電力活用協議会」より、2013年2月6日に表彰を受けました。

富士山の世界文化遺産登録に貢献

山梨県・静岡県 の両県は、富士山の豊かな自然やそこから生まれる文化を後世に継承していくため、世界文化遺産登録のための活動を推進してきました。山梨県にある当社のエクシブ山中湖は、その趣旨に賛同し、「富士山世界文化遺産両県県民会議」の会員として、富士山の清掃活動など、さまざまな支援活動を行ってきました。今後も、富士山の周辺環境や景観を守る活動を継続していきます。

RTTG and Our Community

社会貢献活動

当社グループの事業活動は、お客様や社会との信頼関係の上に成り立っています。良き企業市民として信頼される企業であり続けるために、社会・福祉の発展に積極的に取り組んでいます。



地域活動

住む人や訪れる人が美しさや潤いを感じられる地域社会づくりのために、定期的にリゾート地や施設周辺の清掃活動を行っています。今後も地域社会での社会的責任を意識しながら清掃活動を継続していきます。また、当社エクシブ施設の伊豆、山中湖、白浜、琵琶湖、鳥羽などではアルミ缶を回収。換金したお金で椅子を購入し、地元の社会福祉協議会へ寄贈するなどの活動を実施しています。

2月の大雪で特に影響を受けた山中湖では、ホテルの営業もままならない状態の中、ホテルスタッフが率先して、村内の独居・高齢者世帯の雪かきボランティアに参加しました。また軽井沢でも、大雪で足止めされた方々にスパを無償でご利用いただけるようにし、国土交通省より感謝状をいただきました。



とともに外部の支援機関とも連携してきたことなどが、精神障がい者のモチベーション向上と維持につながり、精神障がい者にとって、長期の職場定着を実現したことが挙げられました。



“食育”と“環境学習”

当社は、全国で1,000名を超える料飲組織を持つ特性を活かして、試食体験授業などを通して食の大切さを学ぶ“食育”を実施しています。グランドエクシブ浜名湖は、食育講座としてシェフが地元の小学6年生と一緒に昼食作りに挑戦しました。また、グランドエクシブ那須白河では、環境学習の一環として、ホテルの中を案内しながら、リサイクルやゴルフ場の環境配慮について説明し、地域の小学生に環境について学ぶ場を提供しています。



ハンバーグ作りに挑戦する児童

障がい者雇用の促進

当社グループでは、障がい者雇用にCSR活動の一環と位置づけ、職域開拓と雇用の促進に努めています。

2014年1月、天皇皇后両陛下が、リゾートトラスト東京本社事務支援センターをご視察されました。同センターでは、障がいのある従業員が、それぞれの特性などに応じて80種類以上の業務を行っています。両陛下は、ダイレクトメールの作成や製本業務などをご覧になり、従業員一人ひとりにお声がけされ、激励してくださいました。



また同センターは、「障害者雇用職場改善好事例」(主催:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、後援:厚生労働省)において、平成25年度の最優秀賞「厚生労働大臣賞」を受賞いたしました。受賞理由として、積極的な職域拡大に加え、新しい業務の導入の際に作業マニュアルを整備したこと、社内支援体制を構築する

東日本大震災 被災地への支援活動

当社グループは、リゾートホテルや医療関連サービスなどホスピタリティ産業に携わる企業として、義援金や生活物資などの寄付を通じて、被災者の方々の支援を続けています。これまでに、震災孤児・遺児への寄付を目的とした愛知ボランティアセンターへの寄付約1億1,500万円、福島県への約1億円寄付などを実施しています。

「金沢都市美文化賞」を受賞

ホテルトラスティ金沢 香林坊が、金沢の町並みと調和した優れたデザインの建造物として「第36回(平成25年度)金沢都市美文化賞」を受賞しました。「端正で重厚なデザインが、中央商業地/香林坊界隈にふさわしい沿道景観を演出し、カフェ空間も品位ある賑わいを供出している」という評価をいただきました。



コーポレート・ガバナンス

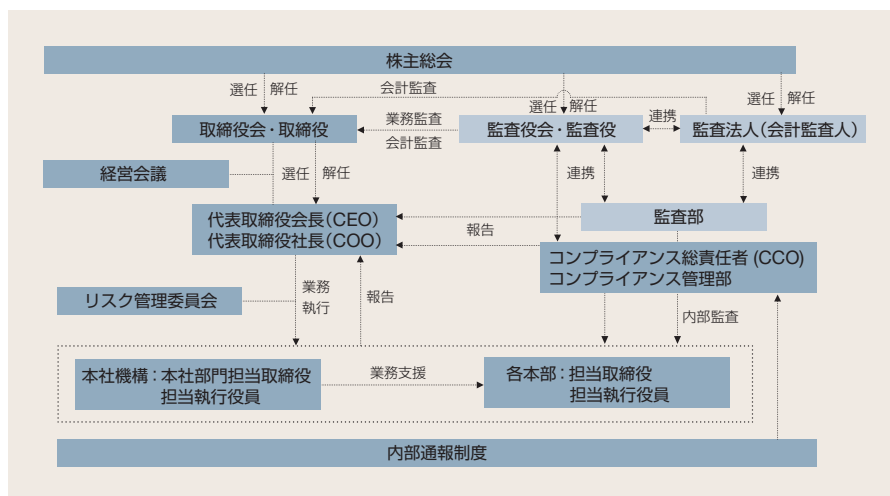
コーポレート・ガバナンスの基本的考え方及び体制

当社は、株主をはじめ、お客様、取引先、地域社会、従業員などすべてのステークホルダーから信頼される企業体制を構築するため、コーポレート・ガバナンスの充実、強化を経営上の最重要課題の一つとして位置づけております。取締役会による経営意思決定の迅速化、経営の監督・監視体制の強化、及び内部統制体制の整備やコンプライアンスの徹底を図り、さらに株主総会の活性化など経営の透明性の確保にも努めております。当社では、これらの機能や施策の実効性を高める統治体制として「監査役会設置会社」形態を採用しており、社外監査役3名を含む4名の監査役による監査を実施しております。なお、2014年6月27日付で社外取締役1名を選任いたしました。

経営意思決定及び執行の体制

当社の取締役会は2014年3月末現在11名で構成され、定例の取締役会を毎月開催しております。また、経営会議は毎月開催し担当役員が重要事項を付議し、さまざまな観点から議論を尽くしております。その後、定例の取締役会に付議し、審議を行い重要事項を決議しています。取締役会には監査役全員が出席し、必要に応じて意見を述べています。また、業務執行を担当する執行役員を2014年3月末現在で10名選任しており、効率的かつ効果的な業務執行体制をとっております。

社外監査役の谷口 嘉孝氏は、当社、関連会社、主要な取引先の業務執行者ではなく、また、当社が報酬を支払っているコンサルタント等の専門家並びに主要株主等ではないことから、一般株主との利益相反が生じるおそれがないと判断し「独立役員」に選任しております。



経営監視の体制

監査役は、全員が取締役会に出席するほか、経営会議やその他の重要な会議についても常勤監査役(2名)が出席し、公正な経営監視体制をとっております。

監査役で構成する監査役会は、監査役会事務局を設置し専任の監査役スタッフ1名を配置して、監査役の職務を補助させ、実効性ある監査に努めております。監査役会は当期中に定例監査役会を8回開催し、監査役監査の基本方針、その他監査業務に関する重要事項の決定や、期中及び期末における監査の状況を踏まえ、会計監査人の監査結果などを中心に審議を行いました。また、定例監査役会のうち5回は、会計監査人の出席を求め、監査計画の概要をはじめ、監査の状況や監査結果の説明を受けるほか、財務報告に係る内部統制の評価結果についても報告を受けるなど、連携強化を図っております。

内部監査については、社長直轄の組織である監査部が、13名のスタッフで全部門を対象に計画的な業務監査及び内部統制監査を行っており、その結果を社長に報告するとともに、関係部署に対しても評価結果を開示し改善を求めることを通じて、業務運営や内部統制の有効性の向上に努めております。

なお、会計監査人(独立監査人)及び監査人については、現在、有限責任 あずさ監査法人(KPMGメンバーファーム)と監査

契約を締結しており、同監査法人が会社法に基づく会計監査及び金融商品取引法に基づく内部統制監査を実施しております。

内部統制体制

当社は、会社法の規定などをベースに「内部統制の基本方針」を定めており、これに沿って社内規程の整備を図り、適正に運用しております。また、金融商品取引法に基づく「内部統制報告制度」への対応については、「財務報告に係る内部統制の整備・運用評価基本方針」や「財務報告に係る内部統制規程」を定めるとともに、当社監査部に内部統制担当を置き、財務報告に係る内部統制の信頼性を確保する体制の整備・運用を行っております。

リスク管理体制については、リスク管理委員会を設置して、リスク管理をはじめ危機管理体制の整備を図っています。また、コンプライアンスについては、CCO(コンプライアンス総責任者)直轄のコンプライアンス管理部を設置し、企業倫理に則った公正な事業活動及び法令遵守の徹底強化を図っております。また、全従業員(グループ企業を含む)や社外からの通報を受け付ける内部通報制度やホットライン制度を設け、コンプライアンスの徹底に努めております。

ファクトシート



エクシブ有馬離宮 日本料理レストラン「有馬 華曆」

財務データ

経営成績(連結) p30
セグメント別売上高/セグメント別営業利益 p31
収益性指標(連結) / 安全性指標(連結) p32
効率性指標(連結) / 1株当たりデータ(連結) p33

営業データ

会員数推移/会員権契約高推移 p34
ホテルレストラン等事業 p35
カテゴリ別売上高推移/カテゴリ別室稼働率推移/
カテゴリ別宿泊者数推移/カテゴリ別消費単価推移

連結財務諸表

連結貸借対照表 p36
連結損益計算書及び連結包括利益計算書 p38
連結株主資本等変動計算書 p39
連結キャッシュ・フロー計算書 /
連結子会社一覧 p40

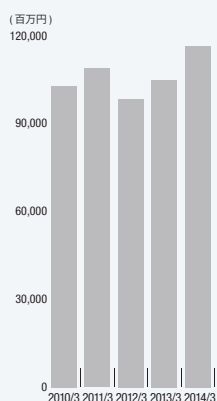
会社情報/株式情報 p41

財務データ

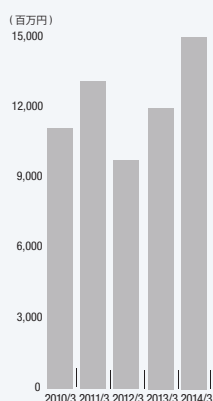
経営成績(連結)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)				
売上高	103,645	108,976	99,894	105,311	116,824
営業利益	11,191	13,172	9,891	12,054	15,119
経常利益	10,916	13,341	9,443	12,976	16,731
税金等調整前当期純利益	6,911	7,866	8,969	11,508	15,310
当期純利益	4,184	3,300	5,415	7,127	8,605
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,270	14,126	19,657	21,338	24,773
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,341	△ 5,962	△ 15,546	△ 15,958	△ 33,747
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,457	△ 19,131	△ 3,351	11,447	22,221
現金及び現金同等物の期末残高	31,592	21,446	21,888	38,716	51,965
営業活動によるキャッシュ・フロー対売上高比率(%)	20.5	13.0	19.7	20.3	21.2
総資産	256,573	237,359	235,151	253,861	300,761
純資産	60,273	61,379	64,883	73,145	81,418

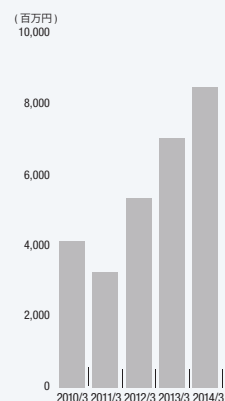
売上高



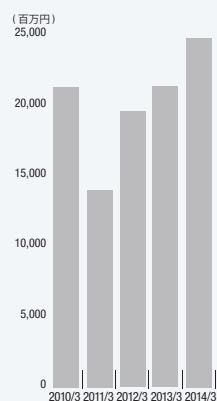
営業利益



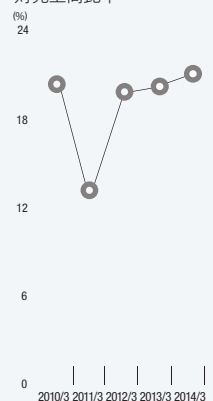
当期純利益



営業活動によるキャッシュ・フロー



営業活動によるキャッシュ・フロー対売上高比率



注) ・各会計年度は3月31日で営業期間が終了した年を表記しております。
 ・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表しております。
 ・1株当たり情報及び主な指標については、小数点第2位で四捨五入して表しております。

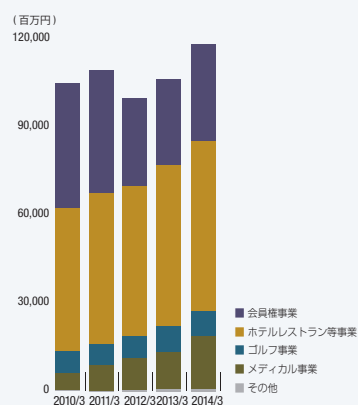
セグメント別売上高

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)				
会員権事業	42,199	41,727	29,199	28,418	32,171
ホテルレストラン等事業	48,227	51,241	52,184	54,765	57,784
ゴルフ事業	7,390	7,235	7,607	8,671	8,623
メディカル事業	5,576	8,473	10,455	12,698	17,341
その他	250	298	447	757	904
合計	103,645	108,976	99,894	105,311	116,824

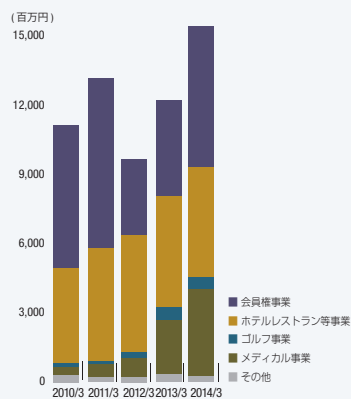
セグメント別営業利益

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)				
会員権事業	6,413	7,370	3,684	3,951	5,839
ホテルレストラン等事業	3,902	4,863	4,902	4,826	4,733
ゴルフ事業	253	156	249	617	549
メディカル事業	318	571	827	2,334	3,743
その他	304	209	226	323	253
合計	11,191	13,172	9,891	12,054	15,119

売上高



営業利益

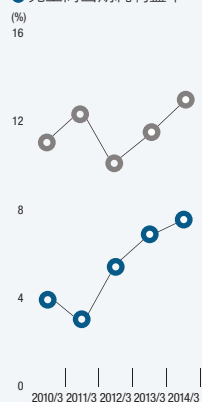


財務データ

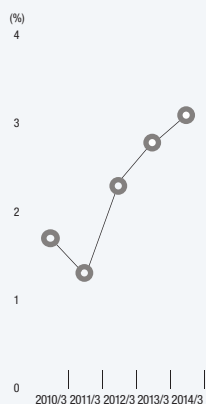
収益性指標(連結)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位: %)				
売上高営業利益率	10.8	12.1	9.9	11.4	12.9
売上高当期純利益率	4.0	3.0	5.4	6.8	7.4
総資産当期純利益率(ROA)	1.7	1.3	2.3	2.9	3.1
自己資本当期純利益率(ROE)	8.1	6.1	9.5	11.4	12.2

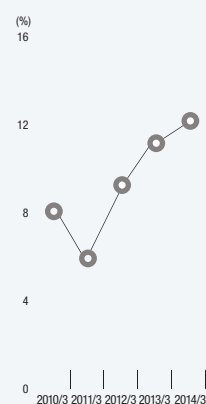
● 売上高営業利益率
● 売上高当期純利益率



総資産当期純利益率(ROA)



自己資本当期純利益率(ROE)



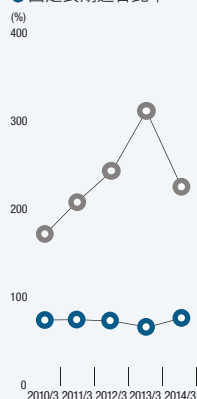
安全性指標(連結)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位: %)				
流動比率	184.1	219.2	255.0	324.0	234.7
固定長期適合比率*1	73.9	74.3	72.5	65.9	76.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ*2(倍)	77.9	60.5	91.7	83.1	89.1
自己資本比率	20.7	23.0	25.0	26.1	24.7

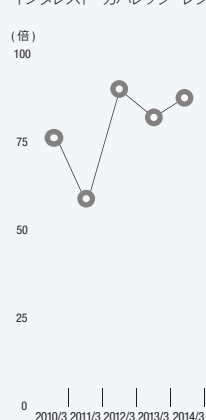
*1 固定長期適合比率 = 固定資産 / (自己資本 + 固定負債) × 100

*2 インタレスト・カバレッジ・レシオ = 営業活動によるキャッシュ・フロー / 利息の支払い額

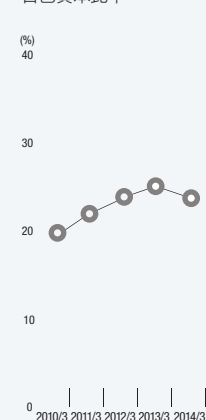
● 流動比率
● 固定長期適合比率



インタレスト・カバレッジ・レシオ



自己資本比率

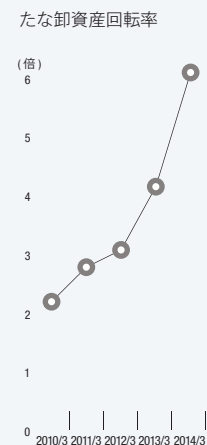
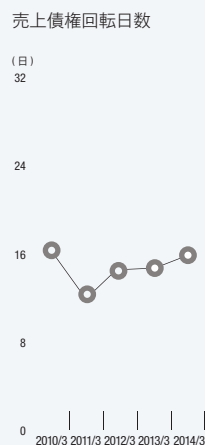
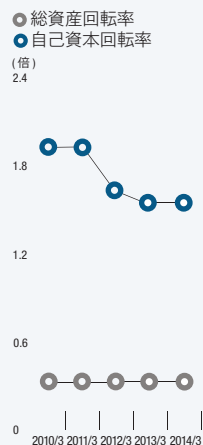


効率性指標(連結)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:倍)				
総資産回転率 ^{*1}	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
自己資本回転率	2.0	2.0	1.7	1.6	1.6
売上債権回転日数 ^{*2} (日)	16.3	12.2	14.8	15.0	16.0
たな卸資産回転率	2.2	2.8	3.1	4.2	6.2

*1 総資産回転率 = 売上高 / 総資産(期中平均)

*2 売上債権回転日数 = (売掛金 + 受取手形) / (売上高 / 年間日数)



1株当たりデータ(連結)

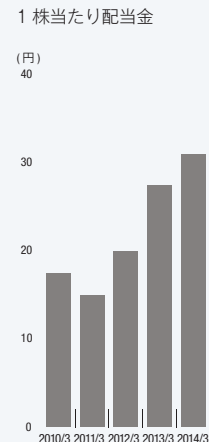
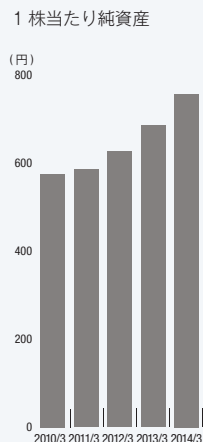
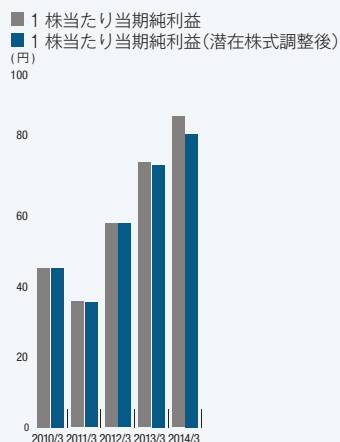
	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:円)				
1株当たり当期純利益 ^{*1}	45.3	35.7	58.0	75.4	88.4
1株当たり当期純利益(潜在株式調整後) ^{*1}	45.3	35.5	57.9	74.6	83.4
1株当たり純資産 ^{*2}	576.4	585.9	628.2	686.9	758.6
1株当たり配当金 ^{*3}	17.5	15.0	20.0	27.5	31.0
配当性向(%)	38.6	42.0	34.5	36.5	35.1

注)2014年1月1日をもって、当社株式を1株につき2株の割合で分割しております。

*1 1株当たり当期純利益は、当該株式分割が各連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

*2 1株当たり純資産は、当該株式分割が各連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

*3 1株当たり配当金は、当該株式分割を考慮して遡及修正した数値を記載しております。



営業データ

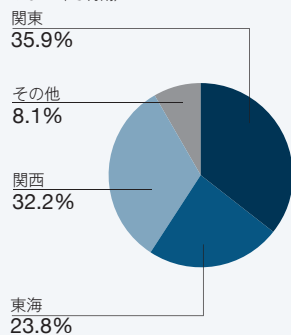
会員数推移

	2010/3		2011/3		2012/3		2013/3		2014/3		
	(単位:人)										
東京ベイコート倶楽部	会員数	4,659		6,286		7,095		8,209		8,424	
	法人	2,267	48.7%	3,115	49.6%	3,589	50.6%	4,249	51.8%	4,533	53.8%
	個人	2,392	51.3%	3,171	50.4%	3,506	49.4%	3,960	48.2%	3,891	46.2%
エクシブ	会員数	60,659		62,127		64,800		67,232		70,431	
	法人	25,389	41.9%	25,787	41.5%	26,933	41.6%	28,070	41.8%	29,744	42.2%
	個人	35,270	58.1%	36,340	58.5%	37,867	58.4%	39,162	58.2%	40,687	57.8%
サンメンバーズ	会員数	38,839		38,192		37,429		36,688		36,124	
クルーザークラブ	会員数	496		472		490		488		465	
ゴルフ	会員数	25,585		25,798		27,428		28,574		29,712	
ハイメディック	会員数	5,964		6,328		6,983		8,235		10,523	
グループ会員数合計		136,202		139,203		144,225		149,426		155,679	

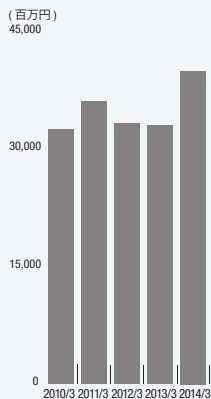
会員権契約高推移

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)				
ホテル会員権	32,762	36,381	33,378	32,879	39,764
メディカル会員権	1,199	2,486	4,476	5,010	5,404
ゴルフ会員権	1,180	1,259	1,959	2,505	2,105
クルーザークラブ会員権	32	58	54	89	160
合計	35,175	40,185	39,868	40,485	47,435

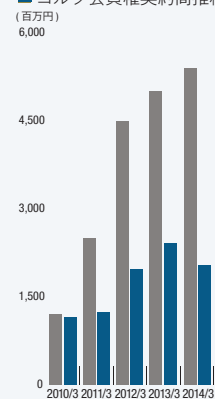
エクシブ会員の地域別割合
(2014年3月期)



ホテル会員権契約高推移



メディカル会員権契約高推移
ゴルフ会員権契約高推移



[ホテルレストラン等事業]

カテゴリ別売上高推移

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)				
エクシブ	26,865	28,495	30,847	31,669	31,941
サンメンバーズリゾート	2,899	2,676	2,571	2,595	3,004
サンメンバーズシティ	1,143	1,326	1,277	1,341	1,487
トラスティ	3,094	3,178	3,134	3,884	4,764
ベイコート	2,908	3,112	3,281	3,727	4,095
運営管理費収入	5,126	5,614	6,061	6,338	6,562
保証金償却収入	1,946	2,351	2,710	2,808	2,916
その他収入	4,244	4,486	2,299	2,398	3,011
合計	48,227	51,241	52,184	54,765	57,784

カテゴリ別室稼働率推移

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:%)				
エクシブ	53.1	52.9	53.6	53.3	53.7
サンメンバーズリゾート	50.3	46.3	44.0	47.4	49.2
サンメンバーズシティ	66.2	69.3	68.4	70.8	76.0
トラスティ	83.0	83.5	83.2	85.7	87.1
ベイコート	29.2	32.3	35.9	41.4	48.3

カテゴリ別宿泊者数推移

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:人)				
エクシブ	1,603,276	1,684,580	1,775,623	1,816,934	1,816,269
サンメンバーズリゾート	228,862	210,715	202,599	211,552	232,721
サンメンバーズシティ	168,504	205,407	202,406	216,511	242,322
トラスティ	376,205	380,217	382,596	472,737	559,606
ベイコート	79,117	86,216	94,802	109,579	124,645
ホテル合計	2,455,964	2,567,135	2,658,026	2,827,313	2,975,563

カテゴリ別消費単価推移

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:円)				
エクシブ	16,757	16,915	17,373	17,430	17,586
サンメンバーズリゾート	12,669	12,701	12,693	12,270	12,912
サンメンバーズシティ	6,786	6,457	6,310	6,197	6,138
トラスティ	8,224	8,359	8,193	8,218	8,514
ベイコート	36,759	36,096	34,611	34,014	32,854

連結貸借対照表

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
					(単位:百万円)
資産の部					
流動資産					
現金及び預金	20,352	14,514	22,950	29,443	46,151
受取手形及び売掛金	3,604	3,676	4,401	4,247	5,979
営業貸付金	28,350	26,313	24,296	23,423	23,305
有価証券	17,899	13,999	7,999	28,399	15,698
商品	346	352	400	470	610
販売用不動産	23,240	23,608	19,726	12,489	5,845
原材料及び貯蔵品	859	859	894	795	899
仕掛販売用不動産	18,626	9,949	8,080	7,374	8,985
繰延税金資産	4,722	4,640	4,359	4,283	4,036
その他	3,712	2,962	3,552	4,800	3,039
貸倒引当金	△ 1,169	△ 829	△ 747	△ 1,715	△ 645
流動資産合計	120,546	100,047	95,914	114,012	113,907
固定資産					
有形固定資産					
建物及び構築物(純額)	52,732	54,359	53,909	52,949	61,355
機械装置及び運搬具(純額)	2,914	2,338	2,009	1,739	2,146
コース勘定	12,338	12,337	12,245	11,036	11,036
土地	25,582	26,515	27,503	27,691	39,176
リース資産(純額)	3,124	2,933	2,817	2,665	2,538
建設仮勘定	3,311	1,287	1,788	2,144	2,303
その他(純額)	2,414	2,450	1,758	1,374	1,409
有形固定資産合計	102,417	102,223	102,032	99,601	119,967
無形固定資産					
のれん	—	292	237	268	359
その他	3,723	3,541	3,205	2,874	2,744
無形固定資産合計	3,723	3,833	3,442	3,142	3,104
投資その他の資産					
投資有価証券	9,614	10,742	16,395	21,954	49,889
関係会社株式	2,955	1,893	1,315	1,219	1,592
長期貸付金	5,187	3,592	3,443	1,393	1,357
退職給付に係る資産	—	—	—	—	225
繰延税金資産	980	2,133	1,699	1,708	1,425
その他	17,894	19,221	19,143	17,370	15,773
貸倒引当金	△ 6,726	△ 6,317	△ 8,233	△ 6,540	△ 6,483
投資損失引当金	△ 20	△ 10	—	—	—
投資その他の資産合計	29,886	31,254	33,763	37,104	63,781
固定資産合計	136,027	137,311	139,237	139,849	186,853
資産合計	256,573	237,359	235,151	253,861	300,761

2010/3 2011/3 2012/3 2013/3 2014/3

(単位:百万円)

負債の部

流動負債

支払手形及び買掛金	735	642	881	893	913
短期借入金	15,000	2,110	—	150	750
1年内返済予定の長期借入金	11,088	9,869	8,976	8,127	7,089
1年内償還予定の社債	1,968	1,924	2,800	1,100	1,675
リース債務	526	477	511	526	438
未払金	9,577	13,109	8,200	6,558	12,761
未払法人税等	5,685	2,398	2,289	2,483	4,594
未払消費税等	723	371	739	877	664
前受金	9,504	810	807	744	3,354
関係会社整理損失引当金	188	—	—	—	—
その他	10,481	13,939	12,403	13,725	16,292
流動負債合計	65,480	45,652	37,610	35,186	48,532

固定負債

社債	7,099	5,175	3,375	3,775	2,100
新株予約権付社債	—	—	—	—	15,064
長期借入金	13,483	10,786	13,584	27,310	37,893
リース債務	3,608	3,272	2,929	2,564	2,385
繰延税金負債	1,450	2,243	1,616	1,060	1,072
退職給付引当金	636	849	1,237	778	—
役員退職慰労引当金	1,560	1,447	1,516	1,574	1,997
株式給付引当金	—	—	—	99	256
退職給付に係る負債	—	—	—	—	1,038
長期預り保証金	102,765	103,772	104,762	105,161	103,924
負ののれん	13	945	825	704	583
その他	201	1,833	2,810	2,502	4,493
固定負債合計	130,820	130,326	132,657	145,529	170,810
負債合計	196,300	175,979	170,268	180,716	219,343

純資産の部

株主資本

資本金	14,258	14,258	14,258	14,258	14,258
資本剰余金	13,906	13,906	13,906	13,906	13,969
利益剰余金	33,877	35,016	38,772	43,391	49,085
自己株式	△ 9,066	△ 8,369	△ 8,035	△ 5,679	△ 4,366
株主資本合計	52,976	54,811	58,901	65,877	72,946

その他の包括利益累計額

その他有価証券評価差額金	257	△ 198	△ 92	395	1,306
退職給付に係る調整累計額	—	—	—	—	159
その他の包括利益累計額合計	257	△ 198	△ 92	395	1,465
新株予約権	189	366	544	287	133
少数株主持分	6,849	6,400	5,529	6,585	6,872
純資産合計	60,273	61,379	64,883	73,145	81,418
負債純資産合計	256,573	237,359	235,151	253,861	300,761

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)				
売上高	103,645	108,976	99,894	105,311	116,824
売上原価	28,635	28,247	19,221	19,994	21,383
売上総利益	75,009	80,728	80,672	85,316	95,440
販売費及び一般管理費	63,818	67,556	70,780	73,261	80,321
広告宣伝費	912	981	1,245	1,197	1,379
会員サービス費	550	718	825	599	715
修繕維持費	2,627	2,646	2,578	3,108	3,763
リネン費	2,916	2,997	3,012	3,150	3,226
従業員給料・賞与及び役員報酬	25,354	25,749	27,848	29,103	32,288
減価償却費	5,425	5,681	5,723	5,129	5,218
その他販管費	26,030	28,780	29,544	30,972	33,731
営業利益	11,191	13,172	9,891	12,054	15,119
営業外収益	708	808	1,999	1,700	2,381
受取利息・受取配当金	366	324	378	626	883
その他営業外収益	341	483	1,620	1,073	1,497
営業外費用	983	639	2,447	778	768
支払利息及び社債利息	279	236	211	256	278
その他営業外費用	703	402	2,236	521	490
経常利益	10,916	13,341	9,443	12,976	16,731
特別利益	21	668	892	243	123
特別損失	4,026	6,142	1,366	1,710	1,544
税金等調整前当期純利益	6,911	7,866	8,969	11,508	15,310
法人税、住民税及び事業税	6,653	5,493	4,955	4,936	6,817
法人税等調整額	△ 2,736	△ 744	2	△ 763	△ 42
法人税等合計	3,917	4,749	4,958	4,173	6,775
少数株主損益調整前当期純利益	—	3,117	4,011	7,335	8,534
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 1,190	△ 183	△ 1,403	208	△ 70
当期純利益	4,184	3,300	5,415	7,127	8,605

連結包括利益計算書

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)				
少数株主損益調整前当期純利益	—	3,117	4,011	7,335	8,534
その他の包括利益	—	△ 456	106	495	911
その他有価証券評価差額金	—	△ 456	106	495	911
包括利益	—	2,660	4,118	7,830	9,445
(内訳)					
親会社株主に係る包括利益	—	2,843	5,521	7,615	9,516
少数株主に係る包括利益	—	△ 182	△ 1,403	215	△ 70

連結株主資本等変動計算書

	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)	
株主資本		
資本金		
当期首残高	14,258	14,258
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	14,258	14,258
資本剰余金		
当期首残高	13,906	13,906
当期変動額		
自己株式の処分		62
当期変動額合計	—	62
当期末残高	13,906	13,969
利益剰余金		
当期首残高	38,772	43,391
当期変動額		
剰余金の配当	△ 2,120	△ 2,911
当期純利益	7,127	8,605
自己株式の処分	△ 386	
連結範囲の変動	△ 0	
当期変動額合計	4,619	5,693
当期末残高	43,391	49,085
自己株式		
当期首残高	△ 8,035	△ 5,679
当期変動額		
自己株式の取得	△ 1	△ 11
自己株式の処分	2,357	1,324
当期変動額合計	2,356	1,313
当期末残高	△ 5,679	△ 4,366
株主資本合計		
当期首残高	58,901	65,877
当期変動額		
剰余金の配当	△ 2,120	△ 2,911
当期純利益	7,127	8,605
自己株式の取得	△ 1	△ 11
自己株式の処分	1,970	1,387
連結範囲の変動	△ 0	
当期変動額合計	6,975	7,069
当期末残高	65,877	72,946

	2013/3	2014/3
	(単位:百万円)	
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△ 92	395
当期変動額		
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	488	910
当期変動額合計	488	910
当期末残高	395	1,306
退職給付に係る調整累計額		
当期首残高	—	—
当期変動額		
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	—	159
当期変動額合計	—	159
当期末残高	—	159
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△ 92	395
当期変動額		
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	488	1,070
当期変動額合計	488	1,070
当期末残高	395	1,465
新株予約権		
当期首残高	544	287
当期変動額		
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△ 257	△ 153
当期変動額合計	△ 257	△ 153
当期末残高	287	133
少数株主持分		
当期首残高	5,529	6,585
当期変動額		
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	1,055	287
当期変動額合計	1,055	287
当期末残高	6,585	6,872
純資産合計		
当期首残高	64,883	73,145
当期変動額		
剰余金の配当	△ 2,120	△ 2,911
当期純利益	7,127	8,605
自己株式の取得	△ 1	△ 11
自己株式の処分	1,970	1,387
連結範囲の変動	△ 0	—
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	1,285	1,203
当期変動額合計	8,261	8,273
当期末残高	73,145	81,418

連結キャッシュ・フロー計算書

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
					(単位:百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,270	14,126	19,657	21,338	24,773
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,341	△ 5,962	△ 15,546	△ 15,958	△ 33,747
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,457	△ 19,131	△ 3,351	11,447	22,221
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 0	△ 0	0	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	14,472	△ 10,967	759	16,828	13,248
現金及び現金同等物の期首残高	17,060	31,592	21,446	21,888	38,716
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	59	821	△ 317	—	—
現金及び現金同等物の期末残高	31,592	21,446	21,888	38,716	51,965

連結子会社一覧

(2014年3月31日)

会社名	事業内容	資本金(百万円)	議決権所有割合(%)
株式会社ジェス	清掃業務等	10	100
株式会社サンホテルエージェンツ	損害保険代理業務	10	100 (100)
サンズ株式会社	施設相互利用システムの提供業務	10	100 (45)
株式会社コンプレックス・ビズ・インターナショナル	ヘアアクセサリー等の製造・販売及びトータルビューティー事業	50	100
RTCC 株式会社	海外リゾート交換利用と国内リゾート予約の受託	50	100
リゾートトラストゴルフ事業株式会社	ゴルフ場の運営及びゴルフ会員権の販売	100	100
株式会社ハイメディック	メディカル会員権の販売及びその管理業務	300	100
株式会社東京ミッドタウンメディスン	医療施設経営に対するコンサルティング事業	100	66.5 (66.5)
株式会社アドバンスト・メディカル・ケア	医療施設経営に対するコンサルティング事業	100	89.8 (89.8)
トラストガーデン株式会社	居宅介護サービス事業	50	100
トラストグレイス株式会社	居宅介護サービス事業	100	95
株式会社サンピナス宝塚	居宅介護サービス事業	30	100
アール・ティー開発株式会社	不動産賃貸等	100	100
ジャストファイナンス株式会社	金銭貸与	10	100
ベストクレジット株式会社	金銭貸与	10	100
アール・エフ・エス株式会社	当社関係会社における経理総務業務	10	100
株式会社メイプルポイントゴルフクラブ	ゴルフ場の運営及びゴルフ会員権の販売	100	8.3 (0.2) [40.1]
株式会社オークモントゴルフクラブ	ゴルフ場の運営及びゴルフ会員権の販売	100	6.9 (0.1) [34.8]
株式会社関西ゴルフ倶楽部	ゴルフ場の運営及びゴルフ会員権の販売	100	100 (100)

(内書): 間接所有割合

[外書]: 緊密な者等の所有割合

会社情報

(2014年3月31日)

社名 リゾートトラスト株式会社
(RESORTTRUST, INC.)
URL <http://www.resorttrust.co.jp/>

東京本社 〒151-0053
東京都渋谷区代々木四丁目36番19号
リゾートトラスト東京ビル
Tel (03)6731-0001 (大代表)

本社 〒460-8490
名古屋市中区東桜二丁目18番31号
Tel (052)933-6000 (大代表)

創業 1973年4月
資本金 142億5,811万円
従業員数 4,597名(連結・正社員)
決算期 3月(年1回)

株式情報

(2014年3月31日)

株主情報

上場証券取引所	東京・名古屋(第一部)
発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	103,411,496株
株主数	18,708名

株主優待

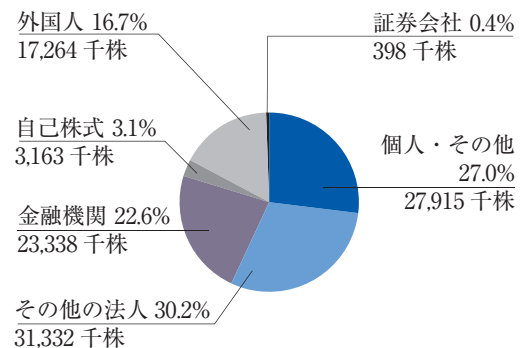
権利確定	3月、100株以上
優待内容	レストラン割引券(30%、50%割引) レストラン飲食または「ホテルトラスティ」 シリーズ宿泊で利用可能

大株主

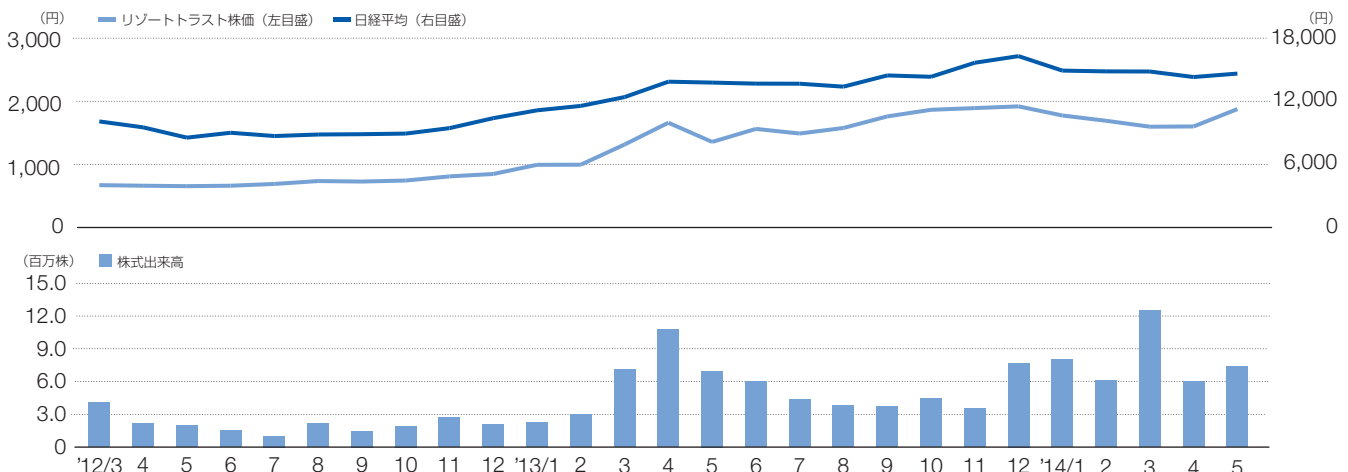
株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社宝塚コーポレーション	13,419	13.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,919	4.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,054	3.9
サッポロビール株式会社	3,351	3.2
伊藤興朗	2,922	2.8
株式会社ジーアイ	2,771	2.7
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	2,153	2.1
株式会社エヌ・コーポレーション	1,745	1.7
株式会社ケー・コーポレーション	1,710	1.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,691	1.6

注)上記の他、当社が保有している自己株式が、3,163千株(3.1%)あります。

所有者別株式数



株価及び出来高の推移



<http://www.resorttrust.co.jp/>